

5878

# 教 授 要 目

付 研究指導要項

昭和 58 年度

小樽商科大学

# 小樽商科大学教授要目

## 目 次

学 年 暦	昭和58年 4月16日(土) 入学式	
	4月18日(月) 2,3,4年次開講	
	4月18日(月)~4月20日(水) 新入生オリエンテーション	1
I 授業科目履修方法	1年次開講	1
1 昭和58年度開講科目	履修届締め日	7
2 履修方法	開講科目の取扱い	26
3 科目試験の受験について	夏季集中講義	27
II 教授要目	夏季休業	27
1 一般教育科目	入学式	34
2 外国語科目	前期定期試験	57
3 保健体育科目	後期授業開始	61
4 基礎教育科目	研究指導所属オリエンテーション	66
5 専門教育科目	履修科目の取扱い	96
6 教職科目	冬季集中講義	98
III 研究指導要項	冬季休業	119
IV 一般教育ゼミ	学科課程所属オリエンテーション	
	学科課程所属募集期間	
	臨時休業	
	後期定期試験	
	卒業判定会議	
	卒業式	

目要對齊學大梓商辦小

次 目

目 次

第 一 章 概 論 1

第 二 章 目 要 對 齊 1

第 三 章 目 要 對 齊 2

第 四 章 目 要 對 齊 3

第 五 章 目 要 對 齊 4

第 六 章 目 要 對 齊 5

第 七 章 目 要 對 齊 6

第 八 章 目 要 對 齊 7

第 九 章 目 要 對 齊 8

第 十 章 目 要 對 齊 9

第 十 一 章 目 要 對 齊 10

第 十 二 章 目 要 對 齊 11

第 十 三 章 目 要 對 齊 12

第 十 四 章 目 要 對 齊 13

第 十 五 章 目 要 對 齊 14

第 十 六 章 目 要 對 齊 15

第 十 七 章 目 要 對 齊 16

第 十 八 章 目 要 對 齊 17

第 十 九 章 目 要 對 齊 18

第 二 十 章 目 要 對 齊 19

学 年 曆 (昭和58年度)

1. 昭和58年度 開講科目

区 分	日 期	単 位 数	配 当 年 次	担 当	考 考
一 般 教 育 科 学 系	昭和58年 4月16日(土)				入学式
	4月18日(月)				2.3.4.年次開講
	4月18日(月)~4月20日(水)				新入生オリエンテーション
	4月21日(木)				1年次開講
	5月13日(金)				履修届締切日
	7月7日(木)				創立記念日
	7月15日(金)~7月26日(火)				履修科目の取消期間
	7月22日(金)~7月28日(木)				夏季集中講義
	7月22日(金)~8月31日(水)				夏季休業
	9月17日(土)				臨時休業
	9月19日(月)~9月30日(金)				前期定期試験
	10月1日(土)				後期授業開始
	11月5日(土)				研究指導所属オリエンテーション
	11月7日(月)~11月30日(水)				研究指導募集期間
	12月5日(月)~12月15日(木)				履修科目の取消期間
12月12日(月)~12月17日(土)				冬季集中講義	
12月12日(月)~59年1月18日(水)				冬季休業	
昭和59年 1月31日(火)				卒業論文提出締切日	
2月1日(水)				学科課程所属オリエンテーション	
2月1日(水)~2月9日(木)				学科課程所属募集期間	
2月13日(月)				臨時休業	
2月14日(火)~2月29日(水)				後期定期試験	
3月15日(木)				卒業判定会議	
3月19日(月)				卒業式	
英 語 以 外	ドイツ語 { I II }	4 4	I II	備考参照	
	フランス語 { I II }	4 4	I II		備考参照

(昭和58年度) 習 卒 学

左業入	(土)日18日4	昭和58年
...	(日)日18日4	
...	(木)日20日4	
...	(木)日21日4	
...	(金)日23日4	
...	(木)日27日4	
...	(火)日28日7	
...	(木)日29日7	
...	(木)日31日8	
...	(土)日17日9	
...	(金)日20日9	
...	(土)日1日10	
...	(土)日2日11	
...	(木)日30日11	
...	(木)日1日12	
...	(土)日17日12	
...	(木)日18日12	
...	(火)日21日1	昭和59年
...	(木)日1日2	
...	(木)日9日2	
...	(日)日13日2	
...	(木)日20日2	
...	(木)日21日8	
...	(日)日21日8	

I 授業科目履修方法

1. 昭和58年度 開講科目

区分	授業科目	単位数	配当年次	担当教官	備考	
一般教育科目	哲学	4	I	渡辺(祐)教授		
	倫理学	4	II	渡辺(祐)教授		
	心理学	4	I	和田(完)教授		
	歴史学	4	I	栗生沢助教授		
	日本文学	4	I	村山教授		
	外国文学	英文学	4	II	豊国教授	
		ドイツ文学	4	I	中川教授	
		フランス文学	4	II・III	江口助教授	
	社会科学系	社会科学概論	2	II	村瀬講師	立正大学教授(夏季集中講義)
		社会学	4	II	安田講師	本学短期学部講師
社会思想史		4	I	倉田教授		
教育学		4	II・III	増井(三)助教授		
政治学		4	I	荒木講師	北海道大学教授	
自然科学系	物理学	4	I	原田教授		
	自然科学概論	4	II	原田教授	(前期)	
	化学	4	I	森岡教授	(後期)	
	生物学	4	I	斉藤教授		
外国語	英語	I	4	I	備考参照	
		II	4	II		
		III	2	III		
	英語	ドイツ語	I	4	I	備考参照
			II	4	II	
		フランス語	I	4	I	
		II	4	II		

語 外 国 語	中国語	{ I 4 II 4 }	I II	中原講師	
	スペイン語	{ I 4 II 4 }	I II	山田(真)講師	
	ロシア語	{ I 4 II 4 }	I II	松本教授	
保健 体育 科目	体育講義	2	II	{ A(前期)森岡 B(後期)教授 }	
	体育実技	{ I 2 II 2 }	I II	杉山教授 藤江教授 田野助教授 中川講師	小樽商業高等学校教諭
基礎 教育 科目	経済学概論	4	I	{ A(前期)加藤講師 B(後期)佐竹助教授 鶴沢助教授 }	本学短期大学部講師
	商学概論	4	I	{ 久野教授 (前期) 山下教授 (後期) }	昭和52年 度以前入 学者は「 概論」を 「法学」 と読み替 える。
	法学概論	4	I	{ 中島講師 (前期) 秋山助教授 (後期) }	
	管理科学概論	4	I	{ 樋口助教授 (前期) 沼田教授 (後期) }	
	数学	4	I	{ 白川助教授 兼岩助教授 }	
専 門 教 育 科 目	統計学	4	II	遠藤助教授	
	数理統計学	4	III	久次教授	
	経済原論 I	4	II	{ 藤井教授 (前期) 鶴沢助教授 (後期) }	昭和50年度以前 入学者は「 経済原論」 と読み替 える
	経済変動論	4	III	増井(幸)教授	昭和50年度 以前入学者 は「経済学 」と読み替 える。
	経済原論 II	4	II・III	花田講師	本学短期大学部 講師
	計量経済学	4	III	遠藤助教授	
	経済史概論	4	II	井上教授	
	日本経済史	4	III	長谷川教授	
	経済政策	4	III	小平助教授	
	農業経済学	4	III・IV	崎浦講師	北海道大学教授
社会政策	4	III	吉武教授		
財政学	4	III・IV	早見教授		

専 門 教 育 科 目	国際経済論	4	III	佐竹助教授		
	貿易政策	4	III・IV	麻田教授		
	国際金融論	4	III・IV	足立教授		
	金融経済論	4	III・IV	今助教授		
	商業 学 科 ・ 商 学 コ ー ス 科 目	流通組織論	4	II	片桐講師	本学短期大学部教授 昭和 53年度以前入学者は「マー ケティング」と読み替える。 昭和53年度以前入学者は 「販売管理」と読み替える。 小樽女子短期大学学長
		マーケティング	4	III	山下教授	
		商業英語	4	III	北村講師	
		証券金融論	4	III・IV	鈴木教授	
		経営学原理	4	II	篠崎教授	
		経営学説史	4	III	高橋(正)講師	本学短期大学部講師
		企業形態論	4	III	小田助教授	昭和53年 年度以前 入学者は 「生産管 理」と読 み替える。
		経営管理論	4	II	鶴野助教授	
		労務管理論	4	III	林助教授	
		国際企業論	2	III	井上講師	(夏季集中講義)神戸大学教授
	商業 学 科 ・ 經 營	経営史	4	III	榎本助教授	
		簿記学	4	II	{ A松本康講師 B山本助教授 渡辺和講師 }	(前期) (後期)本学短期大学部助教授
		会計学	4	III	久野教授	
		監査論	2	III・IV	三沢講師	(夏季集中講義)成蹊大学教授
		原価計算	4	III	福島助教授	
		経営分析	4	III・IV	中助教授	
外国語特殊講義		2	III・IV	グンター・M・ホ イマン外国人講師	オタゴ大学教授	
財産法 I		4	II	神田教授	昭和53年度以前 入学者は「民法 I」と読み替 える。	
財産法 II		4	III	松久講師	本学短 期大学 部講師 昭和53年度以前入 学者は「民法II」 と読み替 える。	
民事訴訟法		4	III・IV	中島講師	昭和53年度以前入学者は 「商法I」と読み替 える。	
会社法	4	III	石原(全)教授	(前期)本学短期大学部助教授 (後期)昭和53年度以前入 学者は「商法II」と読 み替 える。		
商取引法	4	III・IV	出口講師			
青竹教授			青竹教授			
有価証券法	4	III・IV	青竹教授			
憲法	4	II	結城助教授			
行政法 I	4	III	秋山助教授			
行政法 II	4	III・IV	{ 猪又講師 結城助教授 }	(前期)本学短期大学部講師 (後期)		

専 門 教 育 科 目	経済法	4	Ⅲ	和田(健)助教授	
	経済刑法	4	Ⅱ・Ⅲ	振津助教授	
	労働法	4	Ⅲ	島田講師	
	環境法	4	Ⅲ・Ⅳ	飯塚助教授	
	国際法	4	Ⅱ	中村講師	
	国際機構論	4	Ⅲ	{大谷教授(前期) 筒井講師(夏季集中講義)東京大学教授	
	国際資源論	2	Ⅲ・Ⅳ	清水助教授(後期)	
	国際経済法	4	Ⅲ・Ⅳ	清水助教授	
	管理科学通論	6	Ⅱ	浅利講師	東海大学札幌教養部助教授
	管理科学Ⅰ	6	Ⅲ	若林助教授	
管理科学Ⅱ	6	Ⅲ	樋口教授		
管理科学Ⅲ	6	Ⅲ	{戸島教授(前期) 沼田教授(後期)		
機械化会計	6	Ⅲ	山田(一)教授		
情報処理	6	Ⅲ・Ⅳ	杉本助教授		
応用数学(代数)	6	Ⅱ	沼田教授		
応用数学(解析)	6	Ⅱ	小林(正)講師	元北海道大学教授	
応用数学(統計Ⅰ)	6	Ⅲ	清水川助教授		
計算機論Ⅰ	6	Ⅱ	{杉本助教授(前期) 若林助教授(後期)		
計算機論Ⅱ	6	Ⅲ	戸島教授		
研究指導	12	Ⅲ・Ⅳ	備考参照		
教 育 科 目	教育原理	4	Ⅲ	増井(三)助教授	
	教育心理学	4	Ⅱ	湯浅講師	北海道薬科大学助教授
	教育実習	2	Ⅲ・Ⅳ	{井上教授 小田助教授 松本(康)講師 振津助教授 杉本助教授 増井(三)助教授 市川講師	
	教育史	4	Ⅱ	増井(三)助教授	
	職業指導	4	Ⅲ	石井講師	元北海道教育大学教授
	英文学史	4	Ⅰ・Ⅱ	永原教授	
	英文学演習Ⅰ	4	Ⅱ~Ⅳ	君羅助教授	

言語学概論	4	Ⅱ~Ⅳ	{下村助教授(前期) 池上講師(冬季集中講義) 北海道大学教授
英語学演習Ⅰ	4	Ⅱ~Ⅳ	高橋(英)講師
備考			
★英語Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, 担当教官名 永原教授, 豊国教授, 君羅助教授, 下村助教授, 高橋(英)講師, 市川講師, マイケル・エドワード・カー外国人教師, マリー・シェーファー外国人講師(札幌大学女子短期大学部講師), マッシュ・M・ハンレイ外国人講師(北海道大学外国人教師) 〔非常勤講師〕 菊池講師(本学短期大学部教授), 大島講師(本学短期大学部講師), 脇田講師(武蔵女子短期大学教授), 片山講師(北海道大学教授), 鈴木講師(小樽女子短期大学助教授), 西村講師(小樽女子短期大学助教授), 園田講師(北海道大学講師), 安藤講師(小樽女子短期大学助教授), 根本講師(札幌医科大学衛生短期大学助教授)			
★ドイツ語担当教官名 中川教授, 大塚助教授, ティル・ベックマン外国人講師(北海道大学外国人教師), ペーター・リヒター外国人講師(北海道大学外国人教師) 〔非常勤講師〕 加納講師(北海道大学助教授), 筑和講師(北海道大学助教授), 石川講師(北海道大学講師), 高橋(吉)講師(北海道大学助教授)			
★フランス語担当教官名 江口助教授, 高橋(純)助教授, ブリュノ・デュボワ外国人講師(北海道日仏学院院長) 〔非常勤講師〕 佐藤講師(北海学園大学助教授)			
★研究指導担当教官名 〔経済学科〕 麻田教授, 足立教授, 井上教授, 早見教授, 久次教授, 藤井教授, 増井(幸)教授, 吉武教授, 長谷川教授, 鶴沢助教授, 遠藤助教授, 佐竹助教授, 小平助教授, 今助教授			

〔商業学科・商学コース〕

石原(定)教授, 久野教授, 斉藤教授, 篠崎教授, 鈴木教授, 山下教授,  
和田(完)教授

鶴野助教授, 小田助教授, 榎本助教授, 中助教授, 林助教授, 福島助  
教授, 山本助教授

松本(康)講師

〔商業学科・経営法学コース〕

大谷教授, 神田教授, 青竹教授, 石原(全)教授

秋山助教授, 結城助教授, 飯塚助教授, 振津助教授, 中島助教授, 和  
田(健)助教授, 清水助教授

中村講師, 島田講師

〔管理科学科〕

沼田教授, 戸島教授, 山田(一)教授, 樋口教授

清水川助教授, 杉本助教授, 若林助教授

## 2. 履修方法

学生は4年間在学し, 次の事項に示された単位を修得することによって卒業資格が与えられる。

- (1) 単位修得については, 各入学年度および各自が所属している, または, 所属しようとする学科・課程によって異なるので, 十分注意すること。
- (2) 2-(I)は昭和54年度以降入学者, 2-(II)は昭和53年度入学者, 2-(III)は昭和46年度～昭和52年度入学者, 2-(IV)は昭和42年度～昭和45年度入学者が適用される。また, 商業教員養成課程以外の学生で, 教員免許取得を希望する者は, 2-(V)及び2-(VI)を参照のこと。
- (3) 英語(I・II・III)は, 1年次毎週4時間4単位, 2年次毎週4時間4単位, 3年次毎週2時間2単位, 合計10単位が必修である。
- (4) 英語以外の外国語(ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語)は, いずれか1か国語を選択必修とし, 1年次, 2年次とも毎週4時間4単位ずつ計8単位を履修しなければならない。
- (5) 保健体育科目の実技2単位については, 1年次毎週2時間2単位の $\frac{2}{3}$ , 2年次前期または後期に毎週2時間2単位の $\frac{1}{3}$ , 計2単位, 講義については, 2年次前期または後期に毎週2時間2単位がそれぞれ必修である。
- (6) 英文学史, 英文学演習I, 言語学概論, および英語学演習Iは高等学校教諭英語2級普通免許状取得のための授業科目であるが, 卒業所要単位に算入されない科目として履修できる。
- (7) 研究指導は, 毎週3時間, 3年次から2か年継続授業で12単位(卒業論文を含む)である。なお, 履修方法は, 入学年度によって, 違いがあるので注意すること。

昭和53年度以前入学者にあつては, 所属する学科・コース・課程の区分を問わず各自の志望する研究指導を自由に履修することができる。

昭和54年度以降入学者にあつては, 原則として, 所属する学科・コースの研究指導を履修するものとする。商業教員養成課程に所属する学生は, 学科・コースの区分を問わず, 各自の志望する研究指導を履修することができる。

研究指導を履修しない学生(いわゆるノンゼミと称する学生)は研究指導分の12単位をそれぞれ所属する学科の専門教育科目の履修によって充足

しなければならない。

また、商業教員養成課程に所属する学生にあつては、経済学科・商業学科（各コース）・管理科学科の専門教育科目によって充足しなければならない。

- (8) 商業教員養成課程以外の学科に所属する学生で「高等学校2級普通免許状（商業・英語）」の取得を希望する者は、第20表（商業）、第21表（1）または（2）（英語）の単位をそれぞれ修得しなければならない。

また、「中学校教諭英語科1級」の免許状を希望する者は、第21表の（3）の単位を修得すること。ただし、管理科学科に所属する学生は「中学校教諭英語科1級」の免許状は取得できません。なお、これらの単位は卒業所要単位以外の単位である。

- (9) 2年次から、いずれかの学科または課程に所属するが、1年次の終わりまでに、卒業所要単位数に算入される1年次配当科目のうちから16単位以上を修得していない場合は、(ア)学科または課程に所属することができない。

(イ) 2年次配当科目の履修はできない。(ウ) 卒業が1年以上延期される。また、この単位数を在学期間3年を経過しても修得できない場合は除籍になる。

なお、(9)については、昭和56年度入学生から適用される。

- (10) 2年次終了までに、卒業所要単位数に算入される1・2年次配当科目のうちから55単位以上を修得していない場合は、(ア) 3・4年次配当科目の履修は認められない。(イ) 研究指導に所属できない。(ウ) 卒業が1年以上延期される。また、この単位を在学期間4年を経過しても修得できない場合は除籍になる。(昭和55年度以前入学者については、この単位を在学期間6年を経過しても修得できない場合は除籍になる)

この55単位の算入については下記のとおりなので、履修上注意すること。

記	
一般教育科目	28単位まで算入
外国語科目	16単位 "
体育（実技・講義）	4単位 "
基礎教育科目	8単位 "
専門教育科目	2年次配当科目

ただし、専門教育科目については所属学科以外の科目について、28単位まで算入。また商業教員養成課程については専門科目の外に教職科目も算

入する。

- (11) 単位の互換制について

北海道大学経済学部で下記の授業科目を履修することが認められる。この場合の身分は北大の特別聴講学生となる。

- (ア) 聴講出願対象者

学則に関する細則1. 科目履修細則第5条に規定する〔1,2年次配当科目55単位以上〕単位数を修得した58年4月現在の4年次生。

- (イ) 聴講科目

聴講科目	単位	担当教官	開講時期
経済学説史	4	石垣	前期
北海道経済史	4	林	後期
商業史	4	石坂	後期

①「経済学説史」は本学の経済学科の専門科目、「北海道経済史」は本学の経済学科及び商業学科商学コースの専門科目、「商業史」は本学の商業学科商学コースの専門科目として扱い、卒業単位数に算入する。

② 1科目につき、20名が限度。

(ウ) 聴講期間 昭和58年4月～昭和59年3月

(エ) 聴講料 不要。

- (12) 教職関係科目について

次のとおり開講するので、履修計画においては注意のこと。

科目名	昭和58年度	昭和59年度
教育原理	○	○
教育心理学	○	×
商業科教育法	×	○
英語科教育法	×	○
道德教育の研究	×	○
教育史	○	○
職業指導	○	○

○印 = 開講, ×印 = 非開講



## 2-(I) 昭和54年度以降入学者

イ 一般教育科目、外国語科目、保健体育科目および基礎教育科目の履修方法

第1表 経済学科・商業学科・管理科学科および商業教員養成課程

区分	単位数	備考
一般教育科目	人文科学系	4以上 1科目以上
	社会科学系	4以上 1科目以上
	自然科学系	4以上 1科目以上
	計	28 7科目以上
外国語科目	18	{ 英語(I・II・III)必修 英語以外の外国語(5科目)のうちいずれか1科目
保健体育科目	4	体育講義, 体育実技
基礎教育科目	8	2科目以上 { 商業教員養成課程にあっては法学概論(日本国憲法2単位を含む。)
合計	58	
(注) 一般教育科目(人文科学系)のうち、外国文学の単位については、そのいずれか1科目のみを卒業所要単位数に算入する。		

別表 一般教育科目および基礎教育科目

人文科学系	社会科学系	自然科学系	基礎教育科目
授業科目 単位数	授業科目 単位数	授業科目 単位数	授業科目 単位数
哲学 4	社会科学概論 4	物理学 4	経済学概論 4
倫理学 4	社会学 4	自然科学概論 4	商学概論 4
心理学 4	社会思想史 4	化学 4	法学概論 4
歴史学 4	教育学 4	生物学 4	(日本国憲法 2単位を含む) 管理科学概論 4
日本文学 4	政治学 4		数学 4
英文学 4			
ドイツ文学 4			
フランス文学 4			
中国文学 4			
ロシア文学 4			
1科目4単位以上	1科目4単位以上	1科目4単位以上	2科目8単位以上
7科目28単位以上			

## ロ 専門教育科目の履修方法

第2表 経済学科

区分	単位数	内容
経済学科科目	40	1. 「研究指導」を除いた科目。 2. 40単位のなかに統計学, 経済原論I, 経済政策, 経済史概論, 国際経済論, 金融経済論のうちいずれか4科目を含める。
商業学科 商学コース科目 経営法学コース科目	24	1. 「研究指導」及び上欄で選択した科目を除いた科目。 2. 24単位のなかに経営学原理, 会計学, 管理科学通論, 応用数学(代数), 財産法I, 財産法II, 会社法, 商取引法のうちいずれか2科目を含める。
管理科学科科目		
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	
(注) 1. 研究指導を履修する者は、原則として経済学科の研究指導を履修するものとする。 2. 研究指導を履修しない者は、経済学科の科目について、さらに12単位を履修しなければならない。		

第3表 商業学科・商学コース

区分	単位数	内容
商業学科 商学コース科目	40	1. 「研究指導」を除いた科目。 2. 40単位のなかに流通組織論, 証券市場論, 経営学原理, 経営史, 経営管理論, 簿記学, 会計学, 原価計算のうちいずれか4科目を含める。
商業学科 経営 法学コース科目	24	1. 「研究指導」及び上欄で選択した科目を除いた科目。 2. 24単位のなかに統計学, 経済原論I, 経済史概論, 経済政策, 国際経済論, 財産法I, 財産法II, 会社法, 商取引法, 国際経済法, 管理科学通論, 機械化会計のうちいずれか2科目を含める。
経済学科科目		
管理科学科科目		
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	
(注) 1. 研究指導を履修する者は、原則として商学コースの研究指導を履修するものとする。 2. 研究指導を履修しない者は、商学コースの科目について、さらに12単位を履修しなければならない。		

第4表 商業学科・経営法学コース

区 分	単位数	内 容
商業学科 経営 法学コース科目	40	1. 「研究指導」を除いた科目。 2. 40単位のなかに、憲法、財産法Ⅰ、財産法Ⅱ、会社法、経済法、経済刑法、労働法、国際法のうちいずれか4科目を含める。
商業学科 商学コース科目	24	1. 「研究指導」及び上欄で選択した科目を除いた科目。 2. 24単位のなかに流通組織論、証券市場論、経営学原理、経営管理論、労務管理論、会計学、経済原論Ⅰ、経済史概論、経済政策、国際経済論のうち、いずれか2科目を含める。
経済学科科目		
管理科学科科目		
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	
(注) 1. 研究指導を履修する者は、原則として経営法学コースの研究指導を履修するものとする。 2. 研究指導を履修しない者は、経営法学コースの科目についてさらに12単位を履修しなければならない。		

※ 昭和55年4月1日の学則変更により、40単位のなかに「経済刑法」を追加したものである。

第5表 管理科学科

区 分	単位数	内 容
管理科学科科目	40	1. 「研究指導」を除いた科目。 2. 40単位のなかに管理科学通論、管理科学Ⅰ、管理科学Ⅱ、管理科学Ⅲ、機械化会計、応用数学(代数)、応用数学(解析)、計算機論Ⅰのうちいずれか4科目を含める。
経済学科科目	24	1. 「研究指導」及び上欄で選択した科目を除いた科目。 2. 24単位のなかに統計学、経済原論Ⅰ、経営学原理、会計学、財産法Ⅰのうちいずれか1科目を含める。
商業学科 商学コース 科目		
経営法学コース 科目		
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	
(注) 1. 研究指導を履修する者は、原則として管理科学科の研究指導を履修するものとする。 2. 研究指導を履修しない者は、管理科学科の科目について、さらに12単位を履修しなければならない。		

第6表 商業教員養成課程

区 分	単位数	内 容
専門教育科目 経済学科、商業 学科(商学コース、 経営法学コースを含む)、 管理科学科の全 科目。	44	1. 「研究指導」を除いた科目。 2. 44単位のなかに経済原論Ⅰ、統計学、流通組織論、証券市場論、経営学原理、経営管理論、簿記学、会計学、計算機論Ⅰ、事務機械化、財産法Ⅰ、会社法のうちいずれか6科目(24単位)以上含める。
教職科目	20	教育原理、教育心理学、商業科教育法、教育史、教育実習、職業指導を必修とする。
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	
(注) 1. 商業教員養成課程に所属する学生は、学科・コースの区分を問わず各自の志望する研究指導を履修することができる。 2. 研究指導を履修しない者は、経済学科、商業学科(商学コース、経営法学コースを含む)、管理科学科の各科目から、さらに12単位を履修しなければならない。		

2—(II) 昭和53年度入学生

野路志貴員経業商 表8第

イ 一般教育科目, 外国語科目, 保健体育科目および基礎教育科目の履修方法

第7表 経済学科・商業学科

区分	単位数	内容
一般教育科目	人文科学系	4以上 1科目以上
	社会科学系	4以上 1科目以上
	自然科学系	4以上 1科目以上
	計	28 7科目以上
外国語科目	18	{ 英語(I・II・III) 必修 英語以外の外国語(5科目)のうちいずれか1科目
保健体育科目	4	体育講義, 体育実技
基礎教育科目	8	2科目以上
合計	58	
(注) 一般教育科目(人文科学系)のうち, 外国文学の単位については, そのいずれか1科目のみを卒業所要単位に算入する。		

別表 一般教育科目および基礎教育科目

人文科学系		社会科学系		自然科学系		基礎教育科目	
授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数
哲学	4	社会科学概論	4	物理学	4	経済学概論	4
倫理学	4	社会学	4	自然科学概論	4	商学概論	4
心理学	4	社会思想史	4	化学	4	法学概論	4
歴史学	4	教育学	4	生物学	4	(日本国憲法 2単位を含む)	
日本文学	4	政治学	4			管理科学概論	4
英文学	4					数学	4
ドイツ文学	4						
フランス文学	4						
中国文学	4						
ロシア文学	4						
1科目4単位以上		1科目4単位以上		1科目4単位以上		2科目8単位以上	
						7科目28単位以上	

ロ 専門教育科目の履修方法

第8表 経済学科

区分	単位数	内容
経済学科科目	36	1. 「研究指導」を除いた科目。 2. 36単位のなかに統計学, 経済原論I, 経済政策, 経済史概論, 国際経済論, 金融経済論のうち, いずれか3科目を含める。
商業学科 商学コース科目 商業学科 経営 法学コース科目	28	1. 「研究指導」および上欄で選択した科目を除いた科目。 2. 28単位のなかに経営学原理, 会計学, 応用数学(代数), 応用数学(解析), 財産法I, 財産法II, 会社法, 商取引法のうちいずれか2科目を含める。
管理科学科科目		
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	

(注) 研究指導を履修しない者は, 経済学科の科目について, さらに12単位を履修しなければならない。

昭和53年度以前入学者は「流通組織論」を「マーケティング」に, 「マーケティング」を「販売管理」に, 「経営管理論」を「生産管理」に, 「財産法I」を「民法I」に, 「財産法II」を「民法II」に, 「会社法」を「商法I」に, 「商取引法」を「商法II」と読み替える。

昭和55年度以前入学者は「英文学史」を「英文学I」に, 「英文学概論」を「英文学II」に, 「英文学演習I」を「英語(上級II)」に, 「英文学演習II」を「英語(上級IV)」に, 「言語学概論」を「英語学I」に, 「英語学概論」を「英語学II」に, 「英語学演習I」を「英語(上級I)」に, 「英語学演習II」を「英語(上級III)」と読み替える。

第9表 商業学科 商学コース

区分	単位数	内 容
商業学科 商学コース科目	36	「研究指導」を除いた科目。
商業学科 経営 法学コース科目	28	「研究指導」および上欄で選択した科目を除いた科目。
経済学科科目		
管理科学科科目		
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	

(注) 研究指導を履修しない者は、商業学科商学コースの科目について、さらに12単位を履修しなければならない。

昭和53年度以前入学者は「流通組織論」を「マーケティング」に、「マーケティング」を「販売管理」に、「経営管理論」を「生産管理」に、「財産法Ⅰ」を「民法Ⅰ」に、「財産法Ⅱ」を「民法Ⅱ」に、「会社法」を「商法Ⅰ」に、「商取引法」を「商法Ⅱ」と読み替える。

昭和55年度以前入学者は「英文学史」を「英文学Ⅰ」に、「英文学概論」を「英文学Ⅱ」に、「英文学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅱ)」に、「英文学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅳ)」に、「言語学概論」を「英語学Ⅰ」に、「英語学概論」を「英語学Ⅱ」に、「英語学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅰ)」に、「英語学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅲ)」と読み替える。

第10表 商業学科 経営法学コース

区分	単位数	内 容
商業学科 経営法学コース 科目	36	1. 「研究指導」を除いた科目。 2. 36単位のなかに憲法、財産法Ⅰ、財産法Ⅱ、会社法、経済法、経済刑法、労働法、国際法のうち、いずれか4科目を含める。
商業学科 商学コース科目	28	1. 「研究指導」および上欄で選択した科目を除いた科目。 2. 28単位のなかに流通組織論、証券市場論、経営学原理、経営管理論、労務管理論、会計学、経済原論Ⅰ、経済史概論、経済政策、国際経済論のうち、いずれか2科目を含める。
経済学科科目		
管理科学科科目		
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	

(注) 研究指導を履修しない者は、商業学科経営法学コースの科目について、さらに12単位を履修しなければならない。

昭和53年度以前入学者は「流通組織論」を「マーケティング」に、「マーケティング」を「販売管理」に、「経営管理論」を「生産管理」に、「財産法Ⅰ」を「民法Ⅰ」に、「財産法Ⅱ」を「民法Ⅱ」に、「会社法」を「商法Ⅰ」に、「商取引法」を「商法Ⅱ」と読み替える。

昭和55年度以前入学者は「英文学史」を「英文学Ⅰ」に、「英文学概論」を「英文学Ⅱ」に、「英文学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅱ)」に、「英文学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅳ)」に、「言語学概論」を「英語学Ⅰ」に、「英語学概論」を「英語学Ⅱ」に、「英語学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅰ)」に、「英語学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅲ)」と読み替える。

※昭和55年4月1日の学則変更により、36単位のなかに「経済刑法」を追加したものである。

2—(Ⅲ) 昭和46年度～昭和52年度入学者

イ 一般教育科目，外国語科目，保健体育科目および基礎教育科目の履修方法

第11表 経済学科・商業学科

区分	単位数	内 容
一般教育科目	人文科学系	4以上 1科目以上
	社会科学系	4以上 1科目以上
	自然科学系	4以上 1科目以上
	計	28 7科目以上
外国語科目	18	{ 英語(I・II・III)必修 英語以外の外国語(5科目)のうちいずれか1科目
保健体育科目	4	体育講義，体育実技
基礎教育科目	8	2科目以上
合計	58	

(注) 一般教育科目(人文科学系)のうち，外国文学の単位については，そのいずれか1科目のみを卒業所要単位に算入する。

別表 一般教育科目および基礎教育科目

人文科学系	社会科学系	自然科学系	基礎教育科目
授業科目 単位数	授業科目 単位数	授業科目 単位数	授業科目 単位数
哲学 4	社会科学概論 4	物理学 4	経済学概論 4
倫理学 4	社会学 4	自然科学概論 4	商学概論 4
心理学 4	社会思想史 4	化学 4	管理科学概論 4
歴史学 4	教育学 4	生物学 4	数学 4
日本文学 4	政治学 4		
英文学 4	法学概論 4		
ドイツ文学 4	(日本国憲法) (2単位を含む)		
フランス文学 4			
中国文学 4			
ロシア文学 4			
1科目4単位以上	1科目4単位以上	1科目4単位以上	2科目8単位以上
7科目28単位以上			

(注) 昭和52年度以前入学者は基礎教育科目の「法学概論」を一般教育科目「法学」と読み替える。

ロ 専門教育科目の履修方法

第12表 経済学科

区分	単位数	内 容
経済学科科目	36	1. 「研究指導」を除いた科目。 2. 36単位のなかに統計学，経済原論Ⅰ，経済政策，経済史概論，国際経済論，金融経済論のうち，いずれか3科目を含める。
商業学科科目	28	1. 「研究指導」および上欄で選択した科目を除いた科目。 2. 28単位のなかに経営学原理，会计学，応用数学(代数)，応用数学(解析)，財産法Ⅰ，財産法Ⅱ，会社法，商取引法のうちいずれか2科目を含める。
管理科学科科目		
法学関係科目		
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	

(注) 研究指導を履修しない者は，経済学科の科目について，さらに12単位を履修しなければならない。  
昭和50年度以前入学者は「経済原論Ⅰ」を「経済原論」と，「経済原論Ⅱ」を「経済学特殊問題」とそれぞれ読み替える。  
昭和53年度以前入学者は「流通組織論」を「マーケティング」に，「マーケティング」を「販売管理」に，「経営管理論」を「生産管理」に，「財産法Ⅰ」を「民法Ⅰ」に，「財産法Ⅱ」を「民法Ⅱ」に，「会社法」を「商法Ⅰ」に，「商取引法」を「商法Ⅱ」と読み替える。  
昭和55年度以前入学者は「英文学史」を「英文学Ⅰ」に，「英文学概論」を「英文学Ⅱ」に，「英文学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅱ)」に，「英文学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅳ)」に，「言語学概論」を「英語学Ⅰ」に，「英語学概論」を「英語学Ⅱ」に，「英語学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅰ)」に，「英語学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅲ)」と読み替える。

第13表 商業学科

区分	単位数	内容
商業学科科目	36	「研究指導」を除いた科目。
経済学科科目	28	「研究指導」および上欄で選択した科目を除いた科目。
管理科学科目		
法学関係科目		
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	

(注) 研究指導を履修しない者は、商業学科の科目について、さらに12単位を履修しなければならない。

昭和50年度以前入学者は「経済原論Ⅰ」を「経済原論」と、「経済原論Ⅱ」を「経済学特殊問題」とそれぞれ読み替える。

昭和53年度以前入学者は「流通組織論」を「マーケティング」に、「マーケティング」を「販売管理」に、「経営管理論」を「生産管理」に、「財産法Ⅰ」を「民法Ⅰ」に、「財産法Ⅱ」を「民法Ⅱ」に、「会社法」を「商法Ⅰ」に、「商取引法」を「商法Ⅱ」と読み替える。

昭和55年度以前入学者は「英文学史」を「英文学Ⅰ」に、「英文学概論」を「英文学Ⅱ」に、「英文学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅱ)」に、「英文学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅳ)」に、「言語学概論」を「英語学Ⅰ」に、「英語学概論」を「英語学Ⅱ」に、「英語学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅰ)」に、「英語学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅲ)」と読み替える。

2-(Ⅳ) 昭和42年度～昭和45年度入学者

イ 一般教育科目、外国語科目、保健体育科目および基礎教育科目の履修方法

第14表 経済学科

区分	単位数	内容	
一般教育科目	人文科学系	12	3科目以上
	社会科学系	8	2科目以上
	自然科学系	8	2科目以上
	計	28	7科目以上
外国語科目	18	{ 英語(I・II・III) 英語以外の外国語(5科目)のうち、いずれか1科目	
保健体育科目	4	実技、講義	
基礎教育科目	16	経済学概論、商学概論、管理科学概論、数学	
合計	66		
備考	一般教育科目(人文科学系)のうち、日本文学および外国文学の単位については、そのいずれか1科目のみを卒業所要単位に算入する。		

別表 一般教育科目および基礎教育科目

人文科学系	社会科学系	自然科学系	基礎教育科目
授業科目 単位数	授業科目 単位数	授業科目 単位数	授業科目 単位数
哲学 4	社会科学概論 4	物理学 4	経済学概論 4
倫理学 4	社会学 4	自然科学概論 4	商学概論 4
心理学 4	社会思想史 4	化学 4	管理科学概論 4
歴史学 4	教育学 4	生物学 4	数学 4
日本文学 4	政治学 4		
	法学概論 4		
外国文学	(日本国憲法 2単位を含む)		
英文学 4			
ドイツ文学 4			
フランス文学 4			
中国文学 4			
ロシア文学 4			
3科目 12単位	2科目 8単位	2科目 8単位	全科目 必修
7科目 28単位			4科目 16単位
(注) 昭和52年度以前入学者は基礎教育科目の「法学概論」を一般教育科目「法学」と読み替える。			

専門教育科目の履修方法

第15表 経済学科

区分	内容	単位数	
必修科目	統計学, 経済原論Ⅰ, 経済史概論 経営学原理, 会計学, 民法Ⅰ, 商 法Ⅰ	28	
選 択 科 目	経済学科科目 (別表第1の(5)のイ) に掲げる授業科目	「必修科目」および「研究指導」 を除いた科目	24
	商業学科科目 (別表第1の(5)のロ) に掲げる授業科目		
	管理科学科科目 (別表第1の(5)のニ) に掲げる授業科目		
	法学関係科目 (別表第1の(5)のハ) に掲げる授業科目		
	研究指導		
計		16	
		12	
計		80	
卒業所要単位		146	
備考 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 研究指導を履修しない者は、経済学科の科目について「研究指導」12単位数に相当する単位を修得しなければならない。</li> <li>○ 「経済原論Ⅰ」を「経済原論」と、「経済原論Ⅱ」を「経済学特殊問題」とそれぞれ読み替える。</li> <li>○ 昭和53年度以前入学者は「流通組織論」を「マーケティング」に、「マーケティング」を「販売管理」に、「経営管理論」を「生産管理」に、「財産法Ⅰ」を「民法Ⅰ」に、「財産法Ⅱ」を「民法Ⅱ」に、「会社法」を「商法Ⅰ」に、「商取引法」を「商法Ⅱ」と読み替える。</li> <li>○ 昭和55年度以前入学者は「英文学史」を「英文学Ⅰ」に、「英文学概論」を「英文学Ⅱ」に、「英文学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅱ)」に、「英文学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅳ)」に、「言語学概論」を「英語学Ⅰ」に、「英語学概論」を「英語学Ⅱ」に、「英語学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅰ)」に、「英語学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅲ)」と読み替える。</li> </ul>			

[注] 別表第1とは学則第11条の別表第1を示す。

2-(V) 教員免許取得希望者の単位修得方法

第16表 商業教員免許取得希望者の単位修得方法

区分	単位数	必修科目	選択科目
基礎教育科目	4	法学概論 (日本国憲法2単 位を含む)	
教職に関する 専門科目	16	教育原理, 教育心理学, 商 業科教育法, 教育実習, 教 育史	
教科に関する 専門科目	4	職業指導	
	16		統計学, 経済原論Ⅰ 流通組織論, 商品学 証券市場論, 経営学 原理, 企業形態論, 簿記学, 会計学, 事 務機械化, 計算機論 Ⅰ, 財産法Ⅰ, 会社 法 (4科目選択)
合計	40		
備考 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. この表は商業教員養成課程以外の学科に所属する学生に適用するもので、それぞれの学科の卒業所要単位のほかに上記の単位数を修得しなければならない</li> <li>2. 昭和52年度以前入学者は「法学概論」を一般教育科目「法学」と読み替える。</li> <li>3. 昭和53年度以前入学者は「流通組織論」を「マーケティング」に、「財産法Ⅰ」を「民法Ⅰ」に、「会社法」を「商法Ⅰ」と読み替える。</li> </ol>			

第17表 英語科教員免許取得希望者の単位修得方法

(1) 高等学校教諭の場合 (昭和56年度以降入学生)

区 分	単位数	必 修 科 目	選 択 科 目
基礎教育科目	4	法学概論 (日本国憲法2単位を含む)	
教科に関する専門科目	36	英文学史 4 英文学概論 4 言語学概論 4 英語学概論 4 英会話・英作文 4	商業英語 4 英文学演習Ⅰ 4 英文学演習Ⅱ 4 英語学演習Ⅰ 4 英語学演習Ⅱ 4
教職に関する専門科目	17	教育原理, 教育心理学, 英語科教育法, 教育実習, 教育史	
合 計	57		

備考  
 1. それぞれ所属する学科の卒業所要単位のほかに上記単位数を修得しなければならない。ただし、商業教員養成課程の学生は、教科に関する専門科目の単位数と、教職に関する専門科目のうち英語科教育法を修得すればよい。  
 2. 教職に関する専門科目のうち「教育原理」「教育心理学」「教育実習」「教育史」は、16表、17表両方の場合に併用できる。

(2) 高等学校教諭の場合 (昭和55年度以前入学生)

区 分	単位数	必 修 科 目	選 択 科 目
基礎教育科目	4	法学概論 (日本国憲法2単位を含む)	
教科に関する専門科目	32	英文学史 4 英文学概論 4 言語学概論 4 英語学概論 4	商業英語 4 英文学演習Ⅰ 4 英文学演習Ⅱ 4 英語学演習Ⅰ 4 英語学演習Ⅱ 4
教職に関する専門科目	17	教育原理, 教育心理学, 英語科教育法, 教育実習, 教育史	
合 計	53		

備考  
 1. それぞれ所属する学科の卒業所要単位のほかに上記単位数を修得しなければならない。ただし、商業教員養成課程の学生は、教科に関する専門科目の単位数と、教職に関する専門科目のうち英語科教育法を修得すればよい。  
 2. 教職に関する専門科目のうち「教育原理」「教育心理学」「教育実習」「教育史」は、16表、17表両方の場合に併用できる。  
 3. 昭和52年度以前入学者は「法学概論」を「法学」と読み替える。  
 4. 昭和55年度以前入学者は「英文学史」を「英文学Ⅰ」に、「英文学概論」を「英文学Ⅱ」に、「英文学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅱ)」に、「英文学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅳ)」に、「言語学概論」を「英語学Ⅰ」に、「英語学概論」を「英語学Ⅱ」に、「英語学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅰ)」に、「英語学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅲ)」と読み替える。  
 5. 「英会話・英作文」については、昭和56年度入学者から修得するものとする。



(3) 中学校教諭の場合

上記(1)(2)の「教職に関する専門科目」のほか、さらに「道德教育の研究」2単位を修得すれば、管理科学科所属の学生を除いて中学校教諭英語科一級普通免許状をも修得できる。

3. 科目試験の受験について

定期試験（前期，後期）およびこれに準ずる試験を受験する場合，次の注意事項を厳守して，不利益をうけることのないよう十分留意してください。

★受験に際しての注意事項

1. 指定された席に着席すること。（試験開始5分前には着席していること）
2. 身分証明書の携帯がなければ受験できない。（座席の右前方におくこと）
3. 試験時刻に遅れた者は原則として受験できない。ただし，20分以内の遅刻者は，事情により監督者の許可を受けて受験できる場合もある。
4. 試験開始20分以内は退場できない。
5. 試験終了前10分以後は退場できない。
6. 教科書，参考書，ノートなどの不要の所持品は鞆等に納め，これらをむき出しのまま机の中に入れてはいけないこと。
7. 教科書，参考書，ノートなどの参照を許された試験においては，それらの貸借をしてはならない。受験生の間で，貸借のあった場合は，それを不正行為とみなす。
8. 試験において，私語，その他不正行為の疑惑を招くような行為のないよう特に留意すること。
9. 試験中の不正行為については，学則に照して処分されるから厳正な態度で受験すること。
10. 配布された答案用紙は必ず提出し，これを持ち帰ってはならない。
11. その他試験場内において監督者の指示に従わない場合は退場させられる。

〔注〕定期試験に準ずる試験では席を指定しないこともあります。

Ⅱ 教授要目

1 一般教育科目

哲 学 教授 渡 辺 祐 邦

古代ギリシャの自然哲学から，現代哲学にいたる主要な哲学思想について毎年テーマを変えてお話しします。今年は昨年度にひきつづき，ヘーゲルの弁証法的論理学についてお話ししますが，単にパッシブに知識をうけとり，暗記するのではなく，アクティブに思考する習慣を養うために，テキストを読みながら討論すると云う方法をとります。このため受講者は，あらかじめ指定されたテキストの部分について，充分考えて教官の質問に答えなければならず，毎週レポートの提出を要求されます。講義のほかに，文献研究を主とするグループを設けますが，その詳細は最初の時間に説明します。どちらに参加しても良く，途中で変更することも自由です。

講義用テキスト：

ヘーゲル「小論理学」上，下，松村一人訳，岩波文庫  
（文献研究のテキストは，のちほど本人に直接さしあげます）

倫 理 学 教授 渡 辺 祐 邦

「共同存在」としての人間の存在論的構造に関するヨーロッパ倫理学の古典的著作を読みながら，現代における生と実存の意味について考察します。今年度は，昨年度にひきつづきアリストテレスの『政治学』をテキストとして取り上げますが，邦訳とともにギリシャ語の原文を併用するので，ギリシャ語文法に関する簡単な学習を当初に行います。

テキスト：

アリストテレス『政治学』，山本光雄訳，岩波文庫  
田中美知太郎・松平千秋『ギリシャ語入門』岩波全書

参考書：

アリストテレス『形而上学』上・下（岩波文庫），同『ニコマコス倫理学』上・下（岩波文庫）など。

ギリシャ語の辞書は特に必要ないが，もし参照したいならば次のものが

比較的入手しやすい。Liddell and Scott, *Intermediate Greek Lexicon*,  
(Oxford U.P.)

## 心理学 教授 和田 完

心理学の基本的性格を平易に解説し、基礎的法則や概念を理解してもらうことを目標に授業を進める。まず、行動科学としての成立を史の見地に立って説明し、動機づけ、学習、知覚、人格などの話題を提供するだろう。また心理学に関する映画が教材として利用される。

教科書：

和田完他著：人間行動の諸相，明玄書房

## 歴史学 助教授 栗生沢 猛 夫

本年度は「絶対主義」の問題をとりあげたい。主たる対象ないし素材となるのはヨーロッパ，ロシア，日本である。前近代における政治と経済のあり方が近現代のそれにどのような影響を与えたのか，ということが問題の核心となる。本年度中にどこまで進むことができるか今のところ何とも言えないが，受講生諸君とともに種々考えながら進んで行きたい。教科書は指定しない。参考文献は講義の進行とともに示されるが，さしあたり，M・ウェーバー『支配の諸類型』（世良訳）（『経済と社会』第一部第3・4章），『支配の社会学』I，II（世良訳）（『経済と社会』第二部第9章），創文社を読んでおいていただきたい。受講者には通常の試験のほかに前後期数回のレポートの提出が義務づけられる。

## 日本文学A・B 教授 村山 出

AとBとでは，内容と授業形態が違うので，よく吟味してどちらを履修するか決めてください。

A（演習） 自分で調査研究したいと希望する人を対象にしますが，参加人数は20名程度までに限定します。

今年度は，万葉歌成立の背景となった風土と歴史の研究をテーマに，各自の研究・報告を中心とする授業形態をとります。具体的な時期は未定ですが，短期間実際に大和の万葉ゆかりの地の踏査も計画したいと考えています。最終的には研究レポートをまとめてもらいます。

B（講義）『万葉集』について講義します。具体的に作品に触れながら，万葉歌の主題と発想，歌風，歌人に関する諸種の問題について考えて行く予定です。なお，受講者は，試験の時にも必要としますので，下記の教科書を必ず用意して下さい。

教科書：（A・Bの履修者に共通とします）

佐々木信綱編『新訓 万葉集』（岩波文庫）上・下（全2冊）

## 英文学 教授 豊国 孝

前期は英国の代表的作家 D. H. ロレンスを取りあげ，彼の主要な小説を中心にD. H. ロレンス論を試みる。

後期は彼の初期の代表作である *Sons and Lovers* を読む。したがって長編小説を英語で読む程度の英語力を必要とする。

テキスト： 中橋一夫『ロレンス』（研究社）¥1,500

D. H. Lawrence *Sons and Lovers*（桐原書店）

## ドイツ文学 教授 中川 勇 治

ドイツ文学の歴史的な流れの中から，小説を中心にいくつかの作品を紹介し，ドイツ文学の特質は何かという点について考えてみたいと思います。受講者はかならずしもドイツ語の知識を必要とはしませんが，翻訳を通してでも，講義の中で取り上げられた作品は，自分で読んでみる必要があります。

参考書：手塚富雄『ドイツ文学案内』（岩波文庫）

## フランス文学 助教授 江口 修

フランス詩史 —— 迷宮としての言語 ——

詩が確たるトポスを失って久しい。この講義は一応詩史とはしているが歴史的にフランス詩を概観しようとするものではない。言語につきまとうレフェランシャルな性格とそれに対する挑戦としての詩という考え方を中心に，詩をめぐる様々なトピックを取り上げ論考してみたい。例えば聖書は『初めに言葉ありき』と断言することによって，何ものかのレフェランスたることを回避し得た。ではこの断言が不可能となる時，如何にして創造は可能か。問題はここに尽きそうではあるが……。

フランス語の力は全く必要としない。参考図書はその都度指示する。

## 社会科学概論

非常勤講師 村瀬興雄  
(立正大学教授)

ナチズム論を中心として、現代ヨーロッパ史を概観する。まず第1に、ナチズム論の前提として、ドイツ史学史におけるフィッシャー論争と社会史論争をのべる。ここで日本と共通性をもつとされているドイツ第二帝政(1871~1918年)の弱さだけでなく、強さにもふれつつ、中進国の近代化問題をのべる。第2に、ワイマル共和制(1918~1933年)の性格とその崩壊の事情、そして第三帝国(1933~1945年)の成立の事情をのべる。第3に、第三帝国についての各学説を紹介しつつ、同帝国内部における民衆生活の実状、同帝国における「建前」と「実状」との相違、とくにバイエルン農村における画一化政策の限界を指摘する。第4に、第三帝国当時と現代におけるヒトラー崇拜をのべつつ、ひろく現代世界における独裁政治のあり方にふれたい。

[参考書] 村瀬興雄「ナチス統治下の民衆生活」(東大出版会, 1983年)  
同「アドルフ・ヒトラー」(中公新書), ブラッハー著・山口・高橋共訳  
「ドイツの独裁」I・II(岩波書店 1975). 原書としては Bayern in  
dar NS-Zeit 'I-IV, (Broszat u.a. hrsg.), München 1977~1981.

## 社会学

非常勤講師 安田尚  
(小樽商科大学短期大学部講師)

本年度の講義は、次の構成によって行う予定です。

第一部 社会の形成…近代社会思想から社会学へ

第二部 E・デュルケーム社会学の方法と課題

第三部 現代日本の階級構造

(1)ねらい…第一部では、社会学の形成過程を近代市民社会の諸思想の批判的再編成の過程として捉え、近代社会思想・理論の意義と限界を検討することによって、社会学の基本的性格を明らかにしたい。

第二部では、フランス社会学派の創始者であり、現代社会学に今なお大きな影響を与えているE・デュルケームの主要著作を紹介・検討する。

第三部では、現代日本の階級構造を階級構成の特質、労働過程

・組織過程、生活状態論を中心に検討する。

(2)参考文献…①『現代社会学の視界』細谷・八木編, アカデミア出版会。

②その他は、講義の中で紹介する。

## 社会思想史

教授 倉田稔

今年も大クラスと小クラスにわかれる。小クラスは、自由研究。

大クラスは、講義。その内容と方法は昨年と異なる。今年の講義は、メアリ・ウルストンクラフト、農民解放、19C末ウィーン、19C~20Cへのロシア、ドイツ・オーストリア・ロシアの共和制、ナチズム、スターリニズム、の予定。

テキストは使わないが、サブ・テキストとして『社会経済思想史文献(1)』。

## 教育学

助教授 増井三夫

人間形成に於ける社会的統制の過程と構造を色々な局面から検討する。本科目の受講生は例年極めて少人数であるので、本年は出来る限り多くの本を輪読してみたい。テキスト(英語の文献も利用する)は初日に指定するので、受講者は講義初日に必ず私の研究室に集まること。

## 政治学

非常勤講師 荒木俊夫  
(北海道大学教授)

戦後日本の政治過程をテーマとする。

ストックウィン『戦後日本の政治変動』(木鐸社, 1983年)をテキストとして用い、その内容を補足説明するとともに批判的に検討を加える。ただし、テキストの邦訳の出版が少し遅れるので、当分の間はノート講義になる予定である。参考のため、テキストの原書名とその目次を記しておく。

J.A.A. Stockwin, Japan: Divided Politics in a Growth Economy

1章 序 2章 歴史的背景 3章 社会的背景

4章 アメリカによる占領 5章 政治年譜1945~1981年

6章 国会と国政選挙 7章 自由民主党 8章 中央政府の

構造と過程 9章 野党 10章 憲法に関する諸問題

11章 国内の政治問題 12章 外交政策と防衛問題

## 物理学 教授 原田 稔

現代物理学の大きな基礎の一つである量子論についての初等的な解説をジョージ・ガモフ著「現代の物理学—量子論物語」(河出書房新社)にそって行う予定。

## 自然科学概論 (前期) 教授 原田 稔

個別科学の発展史とか、「完成品」としての科学の紹介ではなしに、「発展・成長途上の物」としての科学について話したい。極言すると「答のない問題」について考えようとするわけである。話はどうしても抽象的になるので具体性を与える足場として物理学を用いる。教科書は使用しない。

## 自然科学概論 (後期) 教授 森岡 知一

分子生物学の立場から自然科学を眺めてゆく。テキストは使用しない。生物体を構成する物質の生成と生命現象の把握を中心として、生命に対する将来的展望なども考えてゆきたい。

## 化学 教授 斎藤 要

本年度は基礎科学領域として、17世紀以降における化学の近代化過程で展開された元素、分子、単体、化合物、化学反応に関する唯物論的思考と基本的法則を現代化学の立場から検討してみたい。

また応用化学領域として遺伝子工学と原子力利用の成果と問題点について論ずる予定である。

なお、テキストは使用しないが、参考書は講義のなかで紹介する。

## 生物学 A・B 教授 山田 家正

生物学はAとBの2クラスに分けて行うが、内容が異なり、途中からの変更は事実上不可能となるので下記をよく読んでから履修届を出すこと。

生物学A：系統・進化学、生態学で扱ういくつかのテーマを中心に、生命の流れと生命のあり方について話を進める予定。教科書は使用せず、プリント配布、スライド使用などで補ない、又必要に応じて図書の紹介をする。

生物学B：生命科学をより深く自主的に学びたい者を対象とする。講義内容・形式は受講者数が決定してから決めるので最初の講義時には出席すること。多くのレポート提出、或いは口頭発表が求められる。

臨海実習：9月上旬、ウニの受精と発生の観察を北大臨海実験所(小樽市忍路町)で行う予定。A、Bとも原則として全員参加、但し再履修者で既にレポートを提出している者は参加する必要はないが事前にその旨申出ること。臨海実習のガイダンスは夏休み前に行う。

## 2 外国語科目

### 英語

#### (A) 英語履修方法

- (1) 英語の授業は、教室外における2時間の講義に対し、教室外における1時間の学習を必要とするものとし、毎週2時間通年30週の講義をもって2単位とする。(学則第12条の2参照)
- (2) 英語(I・II・III)は1年次毎週4時間4単位、2年次毎週4時間4単位、3年次毎週2時間2単位、合計10単位が必修となる。(学則第10条および第11条別表第1の(2)参照)
- (3) 昭和58年度の英語クラス配置および教科の種別は別表の通りである。
- (4) 別表のうち、Eではじまる3ケタの数字はクラス別をあらわす記号である。3ケタ目の1,2,3は履修基準年次で、2ケタ目は教科の種別を示している。0は文学作品の講読。1は評論、伝記、語学書等の文学作品以外の講読で、2は会話作文等、3は文法である。1ケタ目の1,2,3……はクラス別を示す。
- (5) 基準年次に配当されているクラスの選択は自由である。しかし、英語Iは別表A群より2単位、B群より2単位、合計4単位を選択履修し、英語IIは講読2単位と他クラスの講読か会話、作文等のうちいずれか2単位合計4単位、英語IIIは講読2単位を選択履修すること。  
なお、同一年次配当の同一教官担当のクラスを2つ履修することは出来ない。
- (6) 履修する学生は教授要目をよく読み、最初の授業に出席した上で自主的にクラスを選択すること。
- (7) 履修登録の手続きは、希望するクラス名をカードに書き込み、学生課教務係の窓口へ提出すること。詳細について別途指示する(学生課の掲示に注意)。なお、当然のことながら、学生部長へ提出する「履修届」には、この登録の結果を記入すること。

#### (B) 別表(昭和58年度英語クラス)

英語 I - A 群				英語 II				英語 III			
講 読 及 び	文 学 作 品	E 101	永原	講 読	文 学 作 品	E 201	永原	講 読	文 学 作 品	E 301	永原
		E 102	永原			E 202	豊国			E 302	豊国
		E 103	豊国			E 203	君市			E 303	君市
		E 104	君市			E 204	市川			E 304	市川
		E 105	市川			E 205	市川			E 305	西村
文 法	評 論 ・ 伝 記 ・ 語 学 書 等	E 111	下村	評 論 ・ 伝 記 ・ 語 学 書 等	評 論 ・ 伝 記 ・ 語 学 書 等	E 211	下村	評 論 ・ 伝 記 ・ 語 学 書 等	評 論 ・ 伝 記 ・ 語 学 書 等	E 311	下村
		E 112	下村			E 212	高橋			E 312	高橋
		E 113	高橋			E 213	安藤			E 313	大島
		E 114	菊池			E 214	根本			E 314	Carr
		E 115	大島			E 215	園木				
				E 216	鈴木						
				E 217	鈴木						
英語 I - B 群											
講 読	文 学 ・ 評 論	E 106	脇田	講 読	文 学 ・ 評 論	E 106	脇田	講 読	文 学 ・ 評 論	E 106	脇田
		E 107	安藤			E 107	安藤			E 107	安藤
		E 108	園田			E 108	園田			E 108	園田
会 話 ・ 作 文	会 話 ・ 作 文	E 121	Carr	会 話 ・ 作 文	会 話 ・ 作 文	E 221	Carr	会 話 ・ 作 文	会 話 ・ 作 文	E 221	Carr
		E 122	Carr			E 222	Carr			E 222	Carr
		E 123	Carr			E 223	Schaefer			E 223	Schaefer
		E 124	Carr								
		E 125	Schaefer								
		E 126	Schaefer								
		E 127	Hanley								
E 128	Hanley										
E 129	Hanley										
文法 E 131 高橋											

# 英語 I

## 〔英語共通試験実施要領〕

- 英語 I - A 群クラスの履修と単位認定について
1. 英語 I は A 群から 1 クラス 2 単位, B 群から 1 クラス 2 単位, 合計 2 クラス 4 単位を選択履修すること。
  2. 英語 I - A 群クラスの履修者には課外テキストを指定し, 年 2 回共通試験を行う。
  3. 共通試験は前期及び後期の各定期試験期間中に行う。前期及び後期の共通試験は両方とも受験しなければならない。
  4. 英語 I - A 群の各クラスの単位は, クラスの成績と共通試験の成績とにより, クラス担当教官が認定する。
  5. 課外テキスト  
小川芳男・上野伊栄太著『高等英文法』有精堂  
ただし, 前期は前半 p. 175 までとし, 後期は p. 176 以降とする。
- ※昭和 54, 55, 56, 57 年度生のうち, 英語 I の単位未修得者の履修方法は昭和 58 年度生の履修方法に準ずる。昭和 53 年度以前の学生で英語 I の未修得者は, 必ず教務係と相談の上で履修方法を決めること。昭和 57 年度以前の学生のうち, 英語 I の単位未修得者は, I - A 群のクラスにかえて E 131 を選択することができる。

### A 群

- 教授 永原 和 夫
- E 101 }
  - E 102 }
- 西村満男編: *American Accent* (南雲堂 ¥ 1,500)  
20 世紀アメリカ短編小説の訳読と分析。どのような理由があっても 3/5 以上出席しない者は受験資格を失なう。
- 教授 豊 国 孝
- E 103
- William Faulkner: *New Orleans Sketches* (北星堂 ¥ 750)  
D.H. Lawrence: *Second Best & Another Story* (北星堂 ¥ 650)

- E 104 助教授 君 羅 久 則  
Graham Greene: *The Basement Room and Other Stories*  
(南雲堂 ¥ 800)  
Graham Greene: *The End of the Party and Other Stories*  
(南雲堂 ¥ 780)
- E 105 講 師 市 川 真理子  
David Garnett: *Lady into Fox* (南雲堂)
- E 111 } 助教授 下 村 五三夫  
◦ E 112 }
- Richard Appiginanesi: *Freud-For Beginners* (太陽社)
- E 113 講 師 高 橋 英 光  
Donald Keene: *Living Japan* (朝日出版社)  
現代の日本文化の特徴を特に日本の近代史との関連で, 日本文学者ドナルド・キーンが描写したものである。
- E 114 非常勤講師 菊 池 昭  
(小樽商科大学短期大学部教授)  
Erich Fromm: *Dream Interpretation* (英宝社)
- E 115 非常勤講師 大 島 稔  
(小樽商科大学短期大学部講師)  
(1) Garvin Bantock: *Twenty Eggs in One Basket* (金星堂 ¥ 830)  
(2) Alan Booth: *Devils, Gods and Cameramen* (金星堂 ¥ 980)  
上記テキスト(1)は, 日本語と英語のことわざ・格言にまつわるエピソードで, (2)は, 日本の祭を英国のカメラマンが取材したもので, 日本文化を紹介すると共に鋭い批評を加えている。  
この両書を速読用教材とし, クラスでは, 内容を段落毎要約してもらい, その後, 語法・文法について質疑応答をする形式で授業を進めていく。

B 群

◦ E 106 非常勤講師 脇田 勇  
(武蔵女子短期大学)

J.Hilton: *Good-Bye, Mr. Chips* (研究社 ¥800)

◦ E 107 非常勤講師 安藤 栄子  
(小樽女子短期大学助教授)

(1) Margaret Drabble: *Margaret Drabble's Short Stories*

(Asahi Press, ¥680)

(2) James Kirkup: *Macbeth* (Asahi Press, ¥580)

◦ E 116 非常勤講師 園田 勝英  
(北海道大学講師)

Alan Warner: *How to Write Clean English* (南雲堂)

論理的に筋道立ってものごとを伝えようとする英語の文章を読み書きする練習をしたいと思います。上記教科書に加え、*New York Times* や *Time* にも教材を求め、最新の米語に慣れ親しむ機会を与えたいと思っています。

◦ E 121 }  
◦ E 122 } 外国人教師 Michael carr  
◦ E 123 }  
◦ E 124 }

B. Abbs & I. Freebairn: *Building Strategies* (Longman)

This course emphasizes practice in English conversation. Attendance and participation in both the classroom and the language laboratory are required. More than five unexcused absences will result in failure. Grades will be given by midterm and final examinations.

◦ E 125 } 非常勤講師 Marrie Schaefer  
◦ E 126 } (札幌大学女子短期大学部講師)

These are classes in spoken English. Classroom work emphasizes active participation in oral drill and conversation. Therefore

weekly class participation is important and attendance in both the classroom and the language laboratory is mandatory. More than 5 absences will result in failure. Lessons from the textbook must be memorized so that correct responses can be given without the text. No mid-year or final examination will be given. Grades will be determined by class participation, occasional classtime quizzes and LL tests.

Modern English-Cycle Two  
Socializing-Book I 1,200円 (Seido Language Institute)

◦ E 127 非常勤講師 Matthew M. Hanley  
(北海道大学外国人教師)

*New Horizons in English 4* (Addison-Wesley Publishing Co.)

In this course, which meets once every week, you will learn a variety of language functions which you must master in order to communicate effectively in English. The focus will be on speaking and listening. We will practice these two activities in class, both in small groups and together, and in the language laboratory. Our work will be based on dialogues from the text and frequent short listening comprehension exercises. Grades will be based on attendance (no more than five absences), class participation, and the results of the mid-term and final examinations.

◦ E 128 非常勤講師 Matthew M. Hanley  
(北海道大学外国人教師)

*New Horizons in English 4* (Addison-Wesley publishing Co.)

Our time in this course in spoken English will be divided between the classroom, where we will work our way through the text, and the language laboratory, where we will complete a graded series of listening comprehension exercises as well as a short course in pronunciation. Your grades will be based on your participation in class and on the two short spoken performance activities I will

ask you to complete. Attendance is mandatory. There will be no mid-term or final examination.

- E 129 非常勤講師 Matthew M. Hanley  
(北海道大学外国人教師)

*New Horizons in English 4* (Addison-Wesley publishing Co.)

Our time in this course in spoken English will be divided between the classroom, where we will work our way through the text, and the language laboratory, where we will complete a graded series of listening comprehension exercises as a short course in pronunciation. Your grades will be based on your participation in class and on the two short spoken performance activities I will ask you to complete. Attendance is mandatory. There will be no mid-term or final examination.

- E 131 講師 高橋 英光

(1) Takashi Kuroda: *New Approach to English Grammar* (愛育社)

(2) Hiroyoshi Kanda: *15 Minutes Dictation Exercises* (鶴見書店)

上記2冊のテキストを併用する。(1)については正確な英文法を身につけ英語の表現・理解の向上を目指すものであり、(2)については英語テープを聞いて、与えられた音声から文を構成している語彙・統語構造を探っていく訓練を行うものである。但し、58年度生は履修できない。

## 英 語 II

- E 201 教授 永原 和夫

Jerome David Salinger: *The Catcher in the Rye* (Eichosha Penguin ¥1,300)

アメリカ20世紀後半を代表する長編小説。かなりのスピードで読むのでよく予習すること。どのような理由があっても2/3以上出席しない者は受験資格を失なう。

- E 202

教授 豊国 孝

H.E. Bates: *The Golden Oriole & Other Stories* (英宝社 ¥880)

D.H. Lawrence: *The Shadow in the Rose Garden* (篠崎書林 ¥750)

- E 203

助教授 君羅 久則

Muriel Spark: *The Girls of Slender Means* (新日本教文大学社 ¥700)

- E 204 }  
◦ E 205 }

講師 市川 真理子

William Shakespeare: *A Midsummer Night's Dream*, ed. Harold F. Books (Methuen)

I.C.T. Onions: *A Shakespeare Glossary* (Oxford University Press) も上掲書と同時に購入すること。

- E 206

非常勤講師 脇田 勇

(武蔵女子短期大学教授)

W.S. Maugham: *The Mixture as Before* (英宝社 ¥880)

- E 207

非常勤講師 西村 千稔

(小樽女子短期大学助教授)

John Steinbeck: *The Red Pony* (英潮社)

1930年代アメリカの代表作家スタインベックの『赤い小馬』に関する批評を分析する。参考書は授業中に指示する。

- E 208

非常勤講師 片山 厚

(北海道大学教授)

T. Capote: *Music for Chameleons* (英宝社)

ちなみに、これは現代アメリカの小説家による短編集である。



- E 209 非常勤講師 片山 厚  
(北海道大学教授)

W. Jones : *Down to Earth* (篠崎書林)  
ちなみに、これは滞日五年の英国人である著者の日英文化の比較をもとにした文化論である。

- E 211 助教授 下村 五三夫  
J. A. Hadfield : *Dreams and Nightmares* (太陽社)

- E 212 講師 高橋 英光  
S. I. Hayakawa : *Language in Thought and Action* (プリント配布)  
認識と言語の問題を扱った章を読む。

- E 213 非常勤講師 安藤 栄子  
(小樽女子短期大学助教授)  
J. Dover Wilson : *Six Tragedies of Shakespeare* (英宝社 ¥860)

- E 214 非常勤講師 根本 慎  
(札幌医科大学衛生短期大学助教授)  
Edward Seidensticker : *The Cultured and the Civilized*  
(朝日出版社 ¥700)

- E 215 非常勤講師 園田 勝英  
(北海道大学講師)

D. Baumwoll & R. Saitz : *Advanced Reading and Writing*  
Vol. I. (文理)

論理的に筋道立ってものごとを伝えようとする英語の文章を読み書きする練習をしたいと思います。上記教科書に加え、*New York Times* や *Time* などにも教材を求め、最新の米語に慣れ親しむ機会も与えたいと思っています。

- E 216 } 非常勤講師 鈴木 良克  
◦ E 217 } (小樽女子短期大学助教授)

Gavin Bantock : *Aspects of England* (成美堂 ¥880)

- E 221 } 外国人教師 Michael carr  
◦ E 222 }

B. Abbs & I. Freebairn : *Building Strategies* (Longman)  
This course emphasizes practice in English conversation. Attendance and participation in both the classroom and the language laboratory are required. More than five unexcused absences will result in failure. Grades will be determined by midterm and final examinations.

- E 223 非常勤講師 マリー・シェーファー  
(札幌大学女子短期大学部講師)

This is a class in spoken English. It is particularly for those students who wish to develop and improve their speaking ability. Classroom work will emphasize oral drill and conversation. Therefore, weekly class participation is important and attendance in both the classroom and the language laboratory is mandatory. More than 5 absences will result in failure. Lessons from the textbook must be memorized so that correct responses can be given without the test. No mid-year or final examination will be given. Grades will be determined by class participation, occasional classtime quizzes.

Modern English-Cycle Two

Information Book 3 1,200円 (Seido Language Institute)

### 英語 III

- E 301 教授 永原 和夫

Joseph Conrad : *Heart of Darkness* (研究社 ¥900)

コンラド (1857-1924) 初期の中編小説を詳しく読む。英語はやや難解なので、かなりの予習が必要。どのような理由があっても3/4以上出席しない者は受験資格を失なう。

。E 302 教授 豊国孝  
教科書未定

英国の作家 D.H. Lawrence の短編小説を読む。

。E 303 助教授 君羅久則

① Muriel Spark: *The Prime of Miss Jean Brodie* (あぽろん社 500円)

② Muriel Spark: *The Prime of Miss Jean Brodie* (Penguin Books 英潮社) 約 500 円

前期は①により前半の3章を読み、後期にはその続編を②によって読む予定である。

。E 304 講師 市川真理子

William Shakespeare: *Othello*, ed. M. R. Ridley (Methuen)

I. C. T. Onions: *A Shakespeare Glossary* (Oxford University Press) も上掲書と同時に購入すること。

。E 305 非常勤講師 西村千稔  
(小樽女子短期大学助教授)

*Short Stories by John Steinbeck* (成美堂)

1930年代アメリカの代表作家スタインベックの短編を読む。最初に "*The Chrysanthemums*" を、次に "*The Leader of the People*" を読んでゆく。

。E 311 助教授 下村五三夫

Edward B. Tylor: *A Guide to Cultural Anthropology* (太陽社)

講師 高橋英光

。E 312

テキストなし。

アメリカの新聞に掲載された人生相談コーナーの問題を講義の中で読み、その解決法を英文でまとめ発表し合う。従って自己表現に重点を置いた授業となる。2~3週に一度づつ short essay を提出してもらう。

。E 313

非常勤講師 大島稔  
(小樽商科大学短期大学部講師)

テキスト

(1) G. W. Smith: *Hidden Meanings* (鶴見書店 ¥900)

(2) G. I. Nierenberg & H. H. Calero: *Meta-Talk* (南雲堂 ¥880)

上記テキストは、英語表現の言外の意味をさぐる好書であり、外国語学習において、外国人には、把握しにくい「対人間関係」「話者のかくされた意図」を、会話表現に使われるきまり文句を例に、平易な英文で解説している。

段落毎の要約と、質疑応答を通じて、本文を理解するという形式で授業を進めます。

。E 314

外国人教師 Michael carr

This is a course in English conversation and composition. There will be weekly readings, compositions, and discussions. All compositions must be typewritten, not handwritten. Both attendance and participation are required. More than three unexcused absences will result in failure.

## ドイツ語 I・II

ドイツ語の授業は下記のクラス編成により行われる。

	ドイツ語 I			ドイツ語 II		
火	I A	前期:ベックマン 後期:リヒター		II A	前期:ベックマン 後期:リヒター	
	I B	中	川	II B	中	川
	I C	大	塚	II C	大	塚
	I D	石	川	II D	石	川
木	I E	大	塚	II E	大	塚
	I F	筑	和	II F	筑	和
	I G	高	橋	II G	高	橋
	I H	加	納	II H	加	納

### 1. クラス説明

- (1) I A・II Aは、ドイツ人講師による会話主導の授業。
- (2) I B・C・Dは講読、I E・F・G・Hは文法である。
- (3) ドイツ語IIは、II A以外すべて講読である。

### 2. 履修方法

- (1) ドイツ語I・IIともに、火曜日と木曜日の授業から必ず一科目ずつ履修すること。
- (2) I A・II Aとも履修者数を教室の都合上40名迄とする。  
なお、II Aは前年度のドイツ人講師による授業の履修を前提としない。
- (3) ドイツ語I・IIともAクラス以外は名簿により下記の要領でクラス分けを行う。

火曜日	Aクラス	希望者
	Bクラス	学生番号 1～130番
	Cクラス	学生番号 131～260番
	Dクラス	学生番号 261～最終番
木曜日	Eクラス	学生番号 1～100番
	Fクラス	学生番号 101～200番
	Gクラス	学生番号 201～300番
	Hクラス	学生番号 301～最終番

なお、このクラス分けは全学年に共通する。

### 3. 注意事項

- (1) 各クラスとも授業出席を重視する。各学期1/3以上欠席した者には、原則として各試験の受験資格を与えない。
- (2) ドイツ語Iのオリエンテーションを4月21日(木)9時30分より104番教室において行うので、ドイツ語I履修希望者は必ず出席すること。なお、ドイツ語IIのオリエンテーションは今年度は行わない。
- (3) 辞書・参考書の紹介は、オリエンテーションで行う。

## ドイツ語 I

I A	外国人講師	前期: ティル・ベックマン (北海道大学外国人教師)
		後期: ペーター・リヒター (北海道大学外国人教師)

### 教材:

- (1) K. Braun, L. Nieder, F. Schmöe: Deutsch als Fremdsprache I A. Neubearbeitung.
- (2) K. Braun, L. Nieder, F. Schmöe: Deutsch als Fremdsprache I A. Dialogische Übungen.
- (3) J. Busse: Training Deutsch. 60 Wortschatz- und Strukturübungen.

その他、独和対照の基本語彙集を選定・使用の予定。

履修者は、以上の教材のうち(1)を必ず購入して授業に臨むこと。その他の教材については、適宜プリントを配布する。

### 授業内容:

本年度は、教材(1)の1～8課を中心に学習し、実践的かつ総合的な語学力の涵養を目指す。

各課は、ドイツの日常生活に即した短い会話を本文とし、さらにパターン練習や文法練習などから構成されている。授業では、各課を耳と口と頭を総動員して理解した後、その応用展開として教材(2)を用いて対話練習をし、さらには教材(3)などを用いて別の語やパターンによる言い換え練習を行って語彙の拡大と応用力の涵養を図る。

できるかぎり英語や日本語を援用せずに授業を進めたいので、履修者のタフな積極性と貪欲な知的好奇心に期待したい。なお、上記の教材および授業

内容は、二人の担当者が協議の上決定したもので、前・後期を通じて授業の方針は一貫している。

I B 教授 中川 勇 治  
テキスト 宮内敬太郎, ガービー・ハース編「若いドイツ」(改訂版)  
三修社 ¥ 1,200

I C 助教授 大塚 讓  
教科書:「小ドイツ語読本」(諏訪 功・Christa Rössler 著  
第三書房 ¥ 980)  
授業への積極的な参加を希望します。この教科書は、表現練習に主眼を置いた文法読本で、何よりも読者の積極的な表現意欲を前提にしています。

I D 非常勤講師 石川 裕 美  
(北海道大学講師)  
教科書: Deutsch als Fremdsprache IA Grundkurs Neubearbeitung

I E 助教授 大塚 讓  
教科書:「活用ドイツ文法」(恒川隆男著・東洋出版 ¥ 1,200)  
授業への積極的な参加を希望します。この文法書は少々型破りで、簡単な文法規則の説明以外はすべて練習問題から成り立っていて、いわば読者自身が書き入れ書き上げることを要求している、と言ってよいでしょう。でも、だからといって身構えるに及ばず、少々骨の折れるブロック遊びほどに考えてみて下さい。この本の表紙が多少複雑なチェの輪の写真になっているのも、著者のそうした意図を表わしているものと思われます。

I F 非常勤講師 筑 和 正 格  
(北海道大学助教授)

教科書:「こんにちのドイツ文法」小塩節著 朝日出版社  
授業の詳細については第一回目の授業時間内に説明する。十分な予・復習を必要とする。

I G 非常勤講師 高 橋 吉 文  
(北海道大学助教授)

I G ドイツ語文法  
大岩信太郎: ドイツ文法12課一改訂版一(朝日出版社)

I H 非常勤講師 加 納 邦 光  
(北海道大学助教授)

使用テキスト: 教養課程のドイツ文法(川島, 佐藤, 神著, 第三書房, 定価1,200円)。大学生協で購入すること。授業の方針: ドイツ語は最初が大切です。休まないで出席して下さい。予習や練習問題をやってきて、授業に出るようにして下さい。出席は毎回とります。試験は年2回, 各学期の最終授業の時にあります。

## ド イ ツ 語 II

II A 外国人講師 { 前 期 : ティル・ベックマン  
(北海道大学外国人教師)  
後 期 : ペーター・リヒター  
(北海道大学外国人教師)

教 材:

- (1) K. Braun, L. Nieder, F. Schmöe: Deutsch als Fremdsprache IA. Neubearbeitung.
- (2) K. Braun, L. Nieder, F. Schmöe: Deutsch als Fremdsprache IA. Dialogische Übungen.
- (3) J. Busse: Training Deutsch. 60 Wortschatz- und Strukturübungen.
- (4) その他, 独和対象の基本語彙集を選定・使用の予定。

履修者は、以上の教材のうち必ず(1)を購入して授業に臨むこと。その他の教材については、適宜プリントを配布する。

授業内容 著者大塚 勇 治・宮内敬太郎・Christa Rössler 著

本年度は、昨年度使用の„Guten Tag!“をやめて、上記教材(1)の9~19課を中心に学習する。少なくともI Aを履修済みの学生は内容的にみてこの

テキストの変更には抵抗を感じないはずだ。

教材(1)の各課は、ドイツの日常生活に即した短い会話を本文とし、さらにパターン練習や文法練習などから構成されている。授業では、各課を耳と口と頭を総動員してマスターした後、その応用展開として教材(2)を用いて対話練習をし、さらには教材(3)などを用いて別の語やパターンによる言い換え練習を行って語彙の拡大と応用力の涵養を図る。

できるかぎり英語や日本語を援用せずに授業を進めたいので、履修者のタフな積極性と貪欲な知的好奇心に期待したい。

(なお、上記教材および授業内容は、二人の担当者が協議の上決定したもので、前・後期を通じて授業の方針は一貫している。)

II B 教授 中川 勇 治

テキスト 和田洋一編「アルト・ハイデルベルク物語」(改訂版)  
白水社 ¥850

II C 助教授 大塚 譲

教科書:「ドイツものがたり-1910年代あるいは今日」(飯吉光夫編著・朝日出版社 ¥820)

授業への積極的な参加を希望します。この教科書は、平明潤達な文章でかつてのドイツを再現し、またそれと現在のドイツを比較しています。折に触れてドイツのジョーク(!)や童話などにも親しんでもらうつもりです。また、定期試験方式はやめて、年間を通じて何度か短いレポート(ドイツ語による)を提出してもらうことになると思います。

II D 非常勤講師 石川 裕 美  
(北海道大学講師)

教科書:新しいドイツ語 I A (新版)朝日出版社 ¥1,100

II E 助教授 大塚 譲

教科書:「素顔のBRD」(Verena Calenberg・宮内敬太郎著・三修社・¥880)

授業への積極的な参加を希望します。この教科書は、初級文法終了直後の

しかし一方ではレッキとした大人である大学生を念頭に置いて、初級後期から中級初期への橋渡しと、aktuellな現代ドイツの紹介とを同時に果たすことを目指した意欲的なテキストです。折に触れて読み易い別種のテキストをも扱います。また、定期試験方式は採らず、年間を通じて何度かドイツ語による簡単なレポートを提出していただくことになると思います。

II F 非常勤講師 筑 和 正 格  
(北海道大学助教授)

教科書:「もうひとりの男」P. strong 著, 白水社。

速読, 多読を基本原則とするが, 訳読だけに留らず, 随時文法事項の復習を織りまぜて授業を進行させる。十分に予習をして出席すること。もちろん, みだりに欠席してはならない。

II G 非常勤講師 高 橋 吉 文  
(北海道大学助教授)

Zwick: 黒い帆 (早川東三編, 白水社)

文法終了後にふさわしいやさしい読物。進度は速いので十分予習してくること。

II H 非常勤講師 加 納 邦 光  
(北海道大学助教授)

使用テキスト:「ドイツの文化とことば」(著者, 高松・コンラート, その他, 出版社「芸林書房」定価1,000円)。大学生協で購入のこと。授業の方針:やさしい文章でドイツ語に慣れることを最初の目標にします。一回の授業で一課だけ進むとは限らず, 短い所は二課, 三課, まとめて読んでいきます。必ず予習をして授業に出るようにして下さい。出席は毎回とります。試験は年2回, 各学期の最終授業の時にいきます。

## フランス語 I・II

フランス語の授業は下記のクラス編成によって行われる。

	フランス語 I			フランス語 II		
火	I A	佐藤	藤橋	II A	佐藤	藤橋
	I B	高橋	江口	II B	江口	高橋
	I C	江口	高橋	II C	高橋	江口
木	I A	高橋	江口	II A	江口	高橋
	I B	江口	高橋	II B	高橋	江口
	I C	デュボワ	高橋	II C	デュボワ	高橋

### 注意

- (1) フランス語 II のクラス編成は前年度履修したフランス語 I のクラスと同じ。
- (2) C は会話を中心とした少人数編成(定員25名前後)のクラスで、自由選択制であるが、授業内容はハードであるから、よく考えて選ぶこと。希望者多数の場合には抽選等により決定する。
- (3) フランス語 I A・B は学生番号順にクラス分けを行う。所属クラスは追って指示する。
- (4) 再履修者は過去履修したものと同一のクラスに所属すること。
- (5) 1年次生は、後日指定する日時に行うオリエンテーションに必ず出席すること。

## フランス語 I

I A (火曜日)

非常勤講師 佐藤卓司  
(北海学園大学助教授)

本多文彦「諺名言に学ぶフランス語」

渡辺高明著 Le Français Par les Proverbes 第三書房

I A (木曜日)

助教授 高橋純

用書:「《改訂新版》入門フランス文法演習」佐藤房吉他著

(第三書房) ¥ 1,100

I B (火曜日)

助教授 高橋純

用書:「新川村ふらんす語(決定版)」川村克己著(駿河台出版社)

¥ 950

I B (木曜日)

助教授 江口修

用書:「フランス語の手引」伊地智均他編(行人社) ¥ 800

I C (火曜日)

助教授 江口修

用書:「ふらんす・ふらんせ」数江譲治著(白水社) ¥ 1,300

I C (木曜日)

外国人講師 Bruno Dubois

(北海道日仏学院院長)

L.L.: 視聴覚教材を用い簡単な会話・発音練習。教材テキストは《C'est le Printemps I》で、教室でプリントを配布する。言語表現は社会的行動様式と結びついたものであるから、学生諸君はフランス人の日常生活に関する著作を少なくとも1冊は読むように。

クラスでは活動的生徒の参加により楽しい実用的小会話、場面設定による会話講文訓練を行う。

## フランス語 II

II A (火曜日)

非常勤講師 佐藤卓司

(北海学園大学助教授)

・倉田清・高橋康子著「パンセ・プール・ヌ」Pensées pour nous

芸林書房

・改訂版 鈴木豊著「二年生の新フランス語文法読本」駿河台出版社

2年のクラスは、練習問題付きのテキストを使用しながら、それと平行してフランス文学読本によって、含蓄豊かな密度のある文章も、文学鑑賞をかねて、味わっていかうと思います。

II A (木曜日)

助教授 江口 修

用書：前年度に引き続き「フランス語の手引」伊地智均他編(行人社)を用い、その後の用書は追って指示する。

II B (火曜日)

助教授 江口 修

用書：前年度に引き続き「フランス語の余白に」蓮実重彦著(朝日出版社)を用い、その後の用書は追って指示する。

II B (木曜日)

助教授 高橋 純

用書：「太陽のいいなづけ」菊地昌実編(行人社) ¥ 750 初めは前年度の教科書「新しいフランス語読本」窪川英水著(駿河台出版)を用いる。

II C (火曜日)

助教授 高橋 純

用書：「初歩のテーマ」石井晴一著(三修社) ¥ 860 前年度の用書「新川村フランス文法」(駿河台出版)も併用する。

II C (木曜日)

外国人講師 Bruno Dubois  
(北海道日仏学院院長)

L.L. : «C'est le printemps II» 視聴覚教材を使用しながら、テキスト«Carte sur la table»からのプリントを配布する。原語の問題意識の自覚と敏感な感覚を養うため、学生諸君はフランス語の作用を理解し、生きた会話による言語表現のよりよい展開に努力すること。家庭学習においてはカセットの使用などで発音に慣れるように。

推せん辞書

- (1) 多田道太郎他編「クラウン仏和辞典」(三省堂)
- (2) 鈴木信太郎他編「スタンダード仏和辞典」(大修館)
- (3) 井上源次郎他編「新仏和中辞典」(白水社)

フランス語履習上の注意

- (1) 外国語の学習は教室での練習が重要。したがって授業出席を重視する。
- (2) 平常授業時に小試験を行う場合もあるから必ず受験すること。

中国語 I

講師 中原 健二

中国語は漢字を使用する点では日本語と似ているが(それも簡略化した字体を使っており、日本での字体とまったく同じというわけではない)、実は外国語であること、言うまでもない。字を見ればわかるなどと安心しないように。授業では基礎的な文型と文法事項の修得をめざすが、最初は発音練習に少々時間をかける。中国語の発音はいまではローマ字によって表記されるが、これは中国語にしか通用しないものなので、実際の音と早く結びつけて覚えてしまうこと。また、中国語には周知のとおり声調(4種類)があり、同一音節であっても声調が異なれば異音であると認識される。最初は多くの人の場合、なかなか思いどおりの声調はでないので、ある程度の練習を必要とするであろうから、そのつもりで。

テキスト：中文研究会編「中文基礎」(三和書房)

中国語 II

講師 中原 健二

前年度後期に使用した「ローマ字中国語・語法」の残りの部分から始める。その後の予定については開講後に詳細を伝える。現在のところ、「小学語文」や現代小説の選読を考えている。なお、テキストはコピー使用を予定している。

スペイン語 I

講師 山田 真史

テキスト：(1) 橋本一郎他著 Gramatica española 'fácil'(やさしいスペイン文法) 芸林書房 ¥ 1,000

(2) 吉田秀太郎著 Primeras lecturas en español(スペイン語第一歩) 芸林書房 ¥ 700

辞書：高橋正武編、西和辞典、白水社

テキスト(1)はスペイン語文法の概要を説明し、テキスト(2)は詩や散文などを集めた「読本」(lectura)です。この2冊を用い、基礎文法の習得と平易な文章を訳読できるようになることを目的にします。詳しいことは最初の授業で話します。出席を重視します。なお、前年度まで他の外国語を履修していた者がこのクラスへ志望を変更することは認められません。

## スペイン語Ⅱ

講師 山田真史

テキスト：Sopena 他著，España a través de los siglos(スペイン—世紀から世紀へ) 芸林書房 ￥700  
瓜谷，Álvarez 著，Dialogos sobre varios tema(スペイン語会話読本) 大学書林 ￥1,000

「読解力と表現力」がことしのテーマです。詳しいことは最初の授業で説明します。

## ロシア語Ⅰ

教授 松本忠司

発音，文法，訳読，作文の基礎的学習。

テキスト：新田実著 ロシア語16課 白水社

ほかに，学習の進度に応じ，プリント刷りのテキストを配付する予定。

辞書：現在市販のものにはそれぞれに長短があるが，次のうち1点はぜひとも用意すること。ただし，早急に購入する必要はない。初年度の半年ぐらいは辞書に頼るよりも，単語帳を自分で丹念に作るほうが，はるかに学習効果があるだろう。

八杉貞利編 岩波ロシア語辞典 岩波書店

木村彰一編 博友社ロシア語辞典 博友社

井桁貞敏編 コンサイス露和辞典(改訂版) 三省堂

ロシア語世界の背景を知るために，次の本をすすめる。歴史，文学，地誌ことわざ，文法の簡略辞典としても役立つ。

東郷正延編 ロシア・ソビエトハンドブック 三省堂

## ロシア語Ⅱ

教授 松本忠司

前年度にひきつづき，「ロシア語16課」を使用し，その最後の部分の学習を通じて，ロシア語の基礎的な表現および文法知識を修得し，その後は文学作品(詩，小説，戯曲，回想記)および社会科学関係の論文，新聞論説などの講読に主眼をおく。テキストはプリント刷りの予定。

## 3 保健体育科目

### 体育実技Ⅰ・Ⅱ

教授 杉山登

教授 藤江正

助教授 田野有一

非常勤講師 中川平悟

(小樽商業高校教諭)

#### I 体育実技の履修について

体育実技は必修科目であり，各自所定の時間に出席しなければならない。本学では1年目で毎週2時間(60時間)，2年目は前期・後期各2時間(30時間)のうち，いずれかを選択履修することになっている。

体育実技実施種目は必修種目と選択種目とからなり，必修種目として1年目は体力診断テスト，トレーニング法の実践，水泳，スキー等を行う。2年目では水泳かスキーのいずれか1種目をとらなければならない。

また，選択種目としては下記Ⅲにあげた6種目中より，1・2年目とも1種目を選択履修し，2年目についてはこの種目を前・後期のいずれかで選択履修するものとする。

#### II 必修実技種目とその内容

##### (1) 体力測定

体力診断テスト……反復横とび，垂直とび，背筋力，握力，伏臥上体  
そらし，立位体前屈，踏み台昇降

以上の7種目で測定実施時期は，第1回目5月上旬，第2回目が11月上旬である。体力の優劣判定は，文部省体育局のテスト判定基準により，総合点によってA・B・C・D・Eに区分されるが自己の体力の現状を把握しておくことが肝要である。

##### (2) トレーニング

トレーニング法とその実際について知っておくことは，学生生活および社会生活を営むうえで体力の維持増進をはかる場合に極めて大切なことである。4月～5月の期間を体力づくりのための一般的トレーニング法，器具器材使用法，トレーニング処方等について実習し，授業時間外でも自分で処方し，自発的に継続実施できるようにもってゆきたい。な



お、体力の劣る者（体力診断テストの結果、D・E級の者）については、5月以降も継続指導してゆきたい。

### (3) 水泳

自己安全管理の一環として、水からの事故防止のため水泳技術を修得しておくことは極めて大切なことである。指導段階の区分として都合上、4班に分け各班ごとに下記の内容で実施する。技術修得の過程で班を移動する者もある。実施期間等については、おって掲示等により通知する。

#### 水泳実技内容

区分	実技種目	テスト種目(泳法・距離泳)
初級 A グループ	・立ち方・背浮き・立ちとび込み・伏し浮き・簡易泳法・体位変換	・背浮き・伏し浮きからの立ち方泳法 ・簡易泳法で10m以上 ……距離泳
中級 B・C グループ	・クロール・平泳ぎ ・背泳ぎ・横泳ぎ ・逆とび込み・潜行・ターン	・泳法2種選択……泳法 ・1種目で25～50m……距離泳
上級 D グループ	・クロール・平泳ぎ・逆とび込み・背泳ぎ・バタフライ・潜行・横泳ぎ・ターン	・泳法3種選択……泳法 ・1種目で50m以上……距離泳

### (4) スキー

室内に閉じこもり勝ちな雪国の生活において、自然に親しみながらスキー技術を習得することは、冬季体育の一環として、また将来の社会生活をたのしく健康的なものとするためにも極めて有意義である。1・2年を通して指導段階の区分として都合上、4班に分け各班ごとに下記の内容で実施する。実施時期等については、1月中旬～2月中旬にかけて4週間（8時間）実施するが、詳しい日時については、おって掲示等により通知する。

#### スキー実技内容

区分	実技種目	テスト種目
初級 A グループ	・歩行・滑走法・方向変換 ・転倒法・登行法・直滑降 ・プルーク・ボーゲン ・シュテム・ターン	・プルーク・ボーゲン ・シュテム・ターン
中級 B・C グループ	・プルーク・ボーゲン・横すべり ・斜滑降・シュテム・ターン ・パラレル・ターン	・シュテム・ターン ・パラレル・ターン
上級 D グループ	・パラレル・ターン ・ウェーデルン・発展技術	・パラレル・ターン ・ウェーデルン

### III 選択実技種目とその内容

バレーボール、バスケット・ボール、卓球、ソフトボール（前期）、羽球、トランポリン…等である。なお、人員等の関係で選択種目の変更をさせることもありうる。

### IV 必須実技種目理論

必須実技種目については各々一講分の講義をする予定であるが、その内容、日時に関してはおって通知する。

#### ◆トレーニング基礎理論（1年目…5月予定）

助教授 田野 有一

#### ・トレーニング

今日では“トレーニング”とか“練習”とかいった言葉は実に曖昧、無雑作に用いられ、逆にいえば、それだけ便利な言葉であるといえないこともない。本論では、これらの言葉の意味するものからくりを、体力づくりの必要性和その要素を分析することからはじめ、以下、スポーツと科学、トレーニングと科学、年齢とトレーニング、競技力と体力、筋力・持久力のトレーニング、スピード・パワーのトレーニング…等の基礎知識を得ることによって、「トレーニングの種類とその方法」を探ろうとするものである。

◆水泳基礎理論(1・2年とも6月予定)

	教授 杉山 登
1 現代と水泳	
2 水泳の基礎的技術要因	
3 競泳の技術的要因	
4 基本泳法解説	
5 水泳の安全管理	

◆スキー基礎理論(1年目……12月予定)

	教授 藤江 正
1 スキー概説	
2 スキーの技術的要因	
3 スキー技術の組み立て	
4 スキーの操作と身体の使い方	
5 スキーの安全管理	

体育講義 A(前期) B(後期)

教授 森岡 知一

はじめに、青年期の健康に関する今日の問題を取り上げ、その実態と対策について考察する。とくに、戦前の結核に匹敵するB型肝炎ウイルスのキャリアーは全国で200万人以上を数えるが、殆んど全員が青年である。結婚して子供を生む段階で母親から出産を介して所謂垂直感染といわれる方式で新生児にうつされるから、女子のキャリアーは注意が肝腎である。つづいて、蛋白尿、糖尿について、その原因と対策について考究する。今日の問題のつぎに、系統的保健学についてのべ、就中、生体の免疫応答の理論と実際、および自己免疫疾患の生成についてのべる。環境と生体反応の全般を考え、生活環境と保健の関係を中心に、生物的人口問題にふれて講を終る。

## 4 基礎教育科目

経済学概論 A (前期) 非常勤講師 加藤 睦 洋  
(小樽商科大学短期大学部講師)

初歩的な経済理論のうち「ミクロ理論」と呼ばれている部分を講義します。教科書として下記の書物を使います。

サムエルソン「経済学」上、下両巻、都留重人訳、岩波書店

注意：新入生は学生番号によってA、Bの区別がなされるから、履修届の際間違わないよう注意すること。尚2年目以降の学生は、A、Bいずれを履修してもよい。(A、Bとも講義内容、使用教科書は同じである。)

経済学概論 A (後期) 助教授 佐竹 正 夫

マクロ経済学を講義する。テキストは、サミュエルソン『経済学』(岩波書店)を使う。第10章から19章までが、講義の主要な対象である。

国民所得、失業、乗数、物価、貨幣供給、利子率、財政金融政策等を出来るだけ易しく解説することを目的とする。受講者は、あらかじめテキストを読んでおくことが望ましい。

経済学概論 B 助教授 鶴 沢 秀

この科目は、学生番号83193以降の1年次生と、選択を希望する2年次生以上の学生に対して開かれるものである。科目登録の時に注意すること。

テキストは、Paul A. Samuelson, *Economics* (11版)(好学社のリプリント版がある)または 都留重人訳『サムエルソン経済学』上・下巻(岩波書店刊)を使用する。

講義は、テキスト以外の材料を用いることもある。また、経済学の基礎的知識や、経済学的思考法に十分なじんでもらうために、グラフや式あるいは数値例を用いて説明する。しかしながら、新しい概念を明確に理解し、論理齊合的に使用できるようになるためには、各自の十分な自学自習が必要となり、単位修得のために要求される。

前期試験、後期試験および2回(予定)のミニ・テストの結果に基づいて

単位認定を行う。

講義の主な項目は、

1. 経済循環と経済主体
2. 完全競争下の企業行動の理論
3. 完全競争下の家計行動の理論
4. 市場均衡
5. 独占企業の行動
6. 国民所得勘定と政府活動
7. 単純な乗数理論による均衡国民所得の決定
8. IS-LM分析による均衡国民所得と均衡利子率との決定

参考文献は、講義中に指示する。

## 商学概論 (前期) 教授 久野光朗

最初の授業でガイダンスを行い、参考書の紹介などもいたしますが、教養としての会計—会計学を講述したいと思います。講義内容は、おおむね次のようになります。

- I 会計情報の利用者と会計情報の分析
- II 会計情報の提供者と会計情報の生産
- III 会計情報の提供者と経済事象の認識

参考書：

- 青木茂男、『会計学総論』（中央経済社、1978）  
染谷恭次郎、『会計学』（中央経済社、1978）  
高田正淳編、『会計学総論』（有斐閣、1982）  
神戸大学会計学研究室編、『会計学辞典』（同文館、1976）

## 商学概論 (後期) 教授 山下隆弘

社会的制度としての商業組織についてのシステム概念の構築を試行する。そして、その上にたって今日的流通問題の幾つかについても考察をする。

内容を目次的に示すと次の如しである。

- I 商業システムの出発点的考察
  - (1.1) 商業システムとその複雑性
  - (1.2) 商業システムの史的発展

(1.3) わが国の商業システム

## II 商業システム論の基礎概念

- (2.1) 商業システムの働きと構造
- (2.2) 行動要素とその意思決定
- (2.3) 交換及び取引の理論

## III 小売市場システム論

- (3.1) 小売市場システムの特徴
- (3.2) 消費者行動モデル
- (3.3) 小売店販売行動体系

## IV 卸売市場システム論

## V 商業政策理論の基礎

参考図書：鈴木・田村著「商業論」有斐閣。

## 法学概論 (前期) 講師 中島弘雅

(後期) 助教授 秋山義昭

### 1 講義内容

本学は商科大学でありながら、16名の法学のスタッフをかかえ、第2年次以降、専門的にさまざまな法律学の勉強ができる仕組みになっている(この『教授要目』商業学科経営法学コースの開講科目参照のこと)。この講義は、それら専門的な法律科目を学生諸君が今後学習するための道案内として、主として第1年次生向きに開講されているものである。それ故、この講義では、学生諸君に各種の法に対する実際的知識を提供するというよりは、むしろ、法全体に対する概観的・入門的知識を提供したり、法に対する根本の考え方、個々の法律問題の取り扱い方を理解してもらうことに重点を置いて、授業を行いたいと考えている。

なお、この講義は、下記のテキストを使って授業を進めるが、前期では、主として私法関係の部分、そして後期には、公法関係の部分扱う予定である。

### 2 テキスト

末川博編『新版・法学入門』（有斐閣）。生協に入荷予定なので、第1回目の授業までに各自購入のこと。

3 その他詳しいことは、第1回目の授業で、中島（前期担当）が話す予定である。

### 管理科学概論

（前期）教授 樋口 透

（後期）教授 沼田 久

この講義の目的の1つは、学生諸君に管理科学についての正しいイメージを形成してもらうことである。

〔前期〕

1. OR (Operations Research) の歴史
2. コンピュータとOR
3. 意思決定過程
4. システム・シミュレーション

〔後期〕

日程計画，順序問題，経済性分析，動的計画法，ゲームの理論，線形計画法，輸送問題，巡回セールスマン問題，最適停止問題，グラフ理論などの講義を通じて，管理科学の考え方を身につけてもらう。

教科書・参考文献：必要に応じて指示する。

数 学 S1, S2 助教授 兼 岩 龍 二

S3, S4 助教授 白 川 寛

(1) スラス編成

1年生（83年度入学生）は，次のクラス分けに従って下さい。

クラス	学 生 番 号
S 1	83001~83100
S 2	83101~83200
S 3	83201~83300
S 4	83301~

2年生以上はどのクラスに所属してもよい。

(2) 講義内容

S1, S2 兼岩 龍二

テキストは，

小川久・高橋将一著 現代解析学入門 森北出版 1,800円

1. 集合算とデジタルコンピュータ
2. 連続関数
3. 微分法
4. 積分法
5. 整級数
- (6. 演算子とアナログコンピュータ)
- (7. 行列と行列式)
8. 偏微分法
9. 重積分

であるが，6章，7章についての講義は行わない。高等学校の数学ⅡA，ⅡB程度の予備知識は仮定される。

S3, S4 白川 寛

1変数の微積分法と多変数の微分法の講義と演習を行います。

前期 高校数学Ⅲの微積分法 教科書 新訂数学Ⅲ 東京書籍 小平邦彦編

後期 偏微分法 教科書 微分学 入江盛一著 培風館新数学シリーズ13

## 5 専門教育科目

### 統計学

助教授 遠藤 合 薫

#### 講義内容

- I 記述統計
- II 推測統計

#### 参考書

- (1) 森田優三『新統計概論』日本評論社
- (2) 森田優三・久次智雄『演習統計概論』日本評論社

### 数理統計学

教授 久次智雄

#### 講義内容

1. 確率変数(補論)
2. 標本統計量の分布
3. 線形代数(補論)
4. 多変量正規分布
5. 回帰分析・分散分析の基礎
6. 推定論・検定論の基礎
7. ベイズ的推論

参考書：岩田暁一『経済分析のための統計的方法』(東洋経済新報社)

#### その他

- (1) プリントを用いる予定。
- (2) 「統計学」, 「数学」および「応用数学(代数)」履修済みであるとして講義を進める。
- (3) 最初の講義の際にガイダンスを行うので必ず出席すること。

### 経済原論 I

(前期) 教授 藤井 栄一

今年前半は、通常のマクロ理論の教科書にそいながら、いくつかのトピックスを選択して、体系的でない講義をしたいと思います。そのため、受講生は、マクロとマイクロの両分野について予備的な知識を必要とすることになります。適当な教科書や参考書などで各自に勉強していただきます。

#### 参考文献

- ダービー『中級マクロ経済学』  
レイヤード, ウォルターズ『ミクロ経済学』

ハーシュライファー『価格理論とその応用』

ケインズ『一般理論』

フリードマン『価格理論』

### 経済原論 I

(後期) 助教授 鷗 沢 秀

(1)レオンティエフによる産業連関分析およびその応用例, (2)経済成長論に関して話す予定。

#### 参考文献

Dorfman, R., P. A. Samuelson and R. M. Solow, *Linear Programming and Economic Analysis*, McGraw-Hill, 1958 (好学社リプリント版あり)。邦訳：安井, 福岡, 渡部, 小山共訳『線形計画と経済分析』I, II(岩波書店, 1958-1959)。

森島通夫『産業連関論入門』(創文社, 1956)。

二階堂副包『数理経済学入門』(日本評論社, 1971)。

金子敬生『産業連関の理論と適用』(日本評論社, 1977)。

R. G. D. アレン(新開・渡部訳)『現代経済学——マクロ分析の理論——』上, 下(東洋経済新報社, 1968)。

### 経済変動論

教授 増井 幸夫

インフレ, 失業, スタグフレーション, エネルギー問題を克服し, 「最大の雇用, 生産, 購買力」を確保するにはどうすればよいか, 政府はなにをなしうるか, 景気変動はなぜ起こるか, 景気変動は資本主義経済の宿命的疾患か, 大不況は再来するか, 各個別経済主体にとり長期的展望の開けた経済計画が立てられるような安定的マクロ経済的基礎を提供するにはどうすればよいか, を最近のマクロ経済学の研究成果を総動員して系統的に論じる。

#### 講義題目

1. マクロ経済分析の基礎  
マクロ経済の諸問題, 分かり易い分析法, ケインジアン-マネタリスト論争, マクロ経済変数の測定
2. マクロ経済の長期均衡  
所得, 物価水準の決定メカニズム, 恒常成長モデル
3. マクロ経済ショックに対する動学的調整過程

マクロ経済ショックの諸類型，動学的ケンブリッジ方程式，予想を含む調整動学，名目所得，実質所得，物価水準の循環的調整，利子率の循環的調整，貨幣のショック・アブソーバー機能，アンダーシュューティング，オーバーシュューティング

4. ケインジアン・モデルとマネタリスト・モデル  
基礎的諸仮定，消費関数，投資関数，貨幣需要関数，総供給関数，労働市場の機能，期待形成，経済の自己回復力
5. 経済安定政策  
インフレ問題の性格，失業率の決定要因，期待インフレとフィリップス曲線のシフト，スタグフレーションのメカニズム，マクロ経済目標，安定化戦略の基礎，財政政策の有効性，貨幣政策の有効性，政策効果論争  
テキスト：M.R.ダービー『中級マクロ経済学』マグロウヒル好学社

## 経済原論Ⅱ

非常勤講師 花田 功一  
(小樽商科大学短期大学部講師)

マルクス『資本論』の内容を全般的に解説していきます。

### I 序論

- 1 『資本論』の成立
- 2 マルクス経済学体系における『資本論』の位置
- 3 『資本論』の立場—史的唯物論
- 4 『資本論』の基本内容と『資本論』を学ぶ意義
- 5 『資本論』の方法—上向法，抽象

### II 資本の生産過程

### III 資本の流過程

### IV 資本主義的生産の総過程

テキスト

松石・岡本編『経済原論講義』有斐閣

## 計量経済学

助教授 遠藤 薫

講義内容

### I 計量経済モデル

### II 推定

## 参考書

ゴールドバーガー『計量経済学の理論』東洋経済新報社

## 経済史概論

教授 井上 巽

比較経済史の視点からイギリス・フランス・ドイツおよびアメリカ史上の史実を素材として西洋経済史の基礎理論を論述します。内容的には，昨年度の講義をひき継いで市民革命論から始める予定です。講義の章別編成は以下のとおりですが，若干の変更があるかも知れません。その際には，本年度講義時間の冒頭にお知らせします。

### I 序論

### II 市民革命論

### III 重商主義論

### IV 産業革命論

テキストは使用せず，講義ノートを中心に論述しますので，講義に出席することが何よりも肝要です。参考文献はそのつど指示しますが，さしあたり松田智雄編『西洋経済史』（青林書院新社）および大塚久雄・高橋幸八郎・松田智雄編著『西洋経済史講座』Ⅱ，Ⅳ（岩波書店）をあげておきます。

## 日本経済史

教授 長谷川 伸二

日本資本主義発達史（今年度は独占資本主義の確立より戦時経済体制の崩壊までを講義する予定）

1. 確立期の日本資本主義の特質
2. 第一次世界大戦前後の経済構造の変化
3. 戦後恐慌と労働者・農民運動の発展
4. 金融恐慌から昭和恐慌へ
5. 農村の疲弊と中国侵略の開始
6. 国家独占資本主義の確立と戦時経済体制
7. 日中戦争の拡大と破局への道

前期ではレポート提出，後期ではテストを行うほか，適宜講義中にペーパーや中間レポートの提出を求める。それぞれの課題を期日までに提出し，合格した者のみを評価するので，出席はもとより，自主的な学習のできない者には受講の資格はない。

テキスト：後藤靖・佐々木隆爾・藤井松一著『日本資本主義発達史』有斐閣双書，1979年刊，1,400円。

参考書：とりあえず講義全般にかかわるものをあげておく。

山田盛太郎著『日本資本主義分析』岩波文庫

井上晴丸・宇佐美誠次郎著『危機における日本資本主義の構造』岩波書店

楫西光速他著『日本資本主義の没落』第1巻～第4巻，東京大学出版会

岩波講座『日本歴史』新版，近代5～近代8，岩波書店

今井清一他編『体系・日本現代史』第1巻～第4巻，日本評論社

石井寛治他編『近代日本経済史を学ぶ』下巻，有斐閣選書

隅谷三喜男編『昭和恐慌』有斐閣選書

中村政則著『昭和恐慌』昭和の歴史，第2巻，小学館

中村隆英著『戦前期日本経済成長の分析』岩波書店

安藤良雄編『近代日本経済史要覧』東京大学出版会

遠山茂樹他著『昭和史』新版，岩波新書

金原左門・竹前栄治編『昭和史』有斐閣選書

## 経済政策

助教授 小平 裕

少なくとも経済学概論を履修していることを前提に，厚生経済学を簡単におさらいした後，公共財の供給メカニズムについて講義します。すなわち，利己的な個人が相互の利益のため社会的協力のルールを設定する際の社会的活動の効率性とか成果配分の公正性はどのように保証されるかを検討します。

鈴村興太郎『経済計画理論』（筑摩書房，第2版経済学全集 14）

レイヤード＝ウォルターズ『ミクロ経済学——応用と演習——』（創文社）は非常に役立つ。その他の参考文献は講義の途中で指示します。

## 農業経済学

非常勤講師 崎 浦 誠 治  
(北海道大学教授)

農業経済学の教科書を用いて講義をすすめる。農業はもっとも純粋競争に近い産業とされる。したがってミクロ経済理論の適用にもっともふさわしい応用経済学の1分野であるが，政策によって支えられた現状を考慮して，後半農業政策の経済分析に後半重点をおく。

講義内容は次のとおり。

1. 農業経済学の領域・課題および方法
2. 経済成長と農業
3. 農業経営
4. 農業生産組織と地域農業
5. 食糧需給と市場メカニズム
6. 農業に対する公共政策
7. 農産物の国際貿易
8. 世界の食糧問題

テキスト

崎浦誠治・田辺良則共編著「農業経済学概論」

参考書

秋野正勝ほか4氏共著「現代農業経済学」東大出版会

土屋圭造著「日本農業経済論」日本評論社

## 社会政策

教授 吉 武 清 彦

第I篇 社会政策史

第II篇 社会政策と労働経済学

第III篇 社会政策各論

文 献

大河内一男『社会政策』（総論・各論計2冊）有斐閣

隅谷三喜男『労働経済論』（筑摩書房）

隅谷三喜男『労働経済論』（日本評論社）

白井泰四郎『企業別組合』（中央公論社）

## 財政学

教授 早 見 弘

今年度の講義は，拙著『財政学』の読了を前提として1970年代以降の新しい問題や展開を加えながら進める予定である。その構成はおおむね以下の通りである。

1. 政府の規模と役割
2. 公共財の理論
3. 政府収入の選択：租税と公債
4. 租税の規範理論

5. 租税の実証理論
6. 財政政策論

履修上の注意、参考文献などについて最初の講義の際に述べる。

拙著『財政学』（同文館出版、1980年）。

## 国際経済論

助教授 佐竹正夫

本年度は次の2冊の書物に沿って講義をすすめる。

小野浩『国際経済学』マグローヒル好学社、昭和57年

S. マギー、国本和孝訳『国際貿易』好学社、昭和57年

前者は、国際経済学の理論の解説書で、講義は主にこの書に依る。後者は、実証研究を扱っており、副読本とする。

講義の内容は、貿易利益、貿易構造、貿易政策といった国際貿易の問題の他に、国際収支の調整、対外・対内均衡の問題等である。

## 貿易政策

教授 麻田四郎

戦後の世界経済体制（ブレトン・ウッズ体制）は発足後35年を経過して、現在大きな転換期に直面している。この講義ではこの35年を回顧して、そのなかからわが国の国際経済政策への指針を探したい。講義内容との関連で随時時事問題を取り上げて議論したい。

- (1) 前史：両大戦間期の世界経済
- (2) IMF体制の展開
- (3) GATT体制の展開
- (4) 南北問題の展開

昨年度は(1)、(2)を取り上げるに止まったが、本年度は(2)～(4)に力点を置きたい。

「国際経済論」を必ず履修すること。参考書は講義の過程で随時指摘する。出席率6割以上であることを単位取得の一要件とする。

## 国際金融論

教授 足立 禎

1. 国際通貨制度と国際金融
2. 外国為替の基礎理論
3. 先物為替の理論と実際

4. 多様化した通貨の危険と管理
5. 中央銀行の為替政策と市場介入
6. 金利先物取引、オフショア・センターなど国際金融の新動向

重要参考文献

足立禎著「外国為替の話」東洋経済新報社

足立禎著「外国為替と通貨の危険管理」外国為替貿易研究会（昭和58年5月出版）

E・ゾーメン「屈伸為替相場制度」足立禎訳 勁草書房

足立禎著「外国為替市場」日経新書 No.188

## 金融経済論

助教授 今 喜典

1. 講義予定
  - (1) 金融市場
  - (2) 家計と企業の金融行動
  - (3) 金融仲介機関
  - (4) 金融と実物経済部門
  - (5) 金融政策
2. テキストは指定しないが、次の2冊が講義全般にわたり有用である。
  - (イ) 館龍一郎・浜田宏一著「金融」（岩波書店）。
  - (ロ) 小泉進著「マクロ経済学」（有斐閣）。
 その他の参考文献としては下記のものがある。
  - (ハ) 呉文二著「金融読本」（東洋経済新報社）。
  - (ニ) 永谷敬三著「金融論」（マグローヒル好学社）。
  - (ホ) 工藤和久著「金融理論」（有斐閣）。
  - (ヘ) 貝塚啓明・志村嘉一・蟬山昌一編「金融・証券講座I～V」（東洋経済新報社）。

## 流通組織論

非常勤講師 片桐 誠士  
（小樽商科大学短期大学部教授）

商品流通の歴史的な流れを体系的にあとづけたうえで、資本制商品流通の特質を明らかにし、とくに現代商品流通組織について詳細な論述を行う。

1. 交換ないし商品流通の歴史的展開



2. 資本制商品流通

3. 現代の流通組織

参考文献

森下二次也著「現代商業経済論」(有斐閣)

鈴木 武著「商業と市場の基礎理論」(ミネルヴァ書房)

マーケティング

教授 山下 隆 弘

マネジリアル・マーケティングについてのシステム接近による理論展開をする。そして、それは、単に概念的レベルを超えて、実証的検証可能という意味においてオペレイショナルティを備えたものである。尚、今年度は下記使用テキストの範囲を超えて、消費者欲望の特定化理論と、販売員活動の理論をとりあげる心算である。テキストの目次は、次の如くである。

序 問題意識と概括

一章 伝統的理論の概括とその問題

二章 オールダーソン理論と志向するシステム論

三章 基礎概念とシステムの概念的理解

四章 マーケティング・システムの予備的描写

五章 消費者行動モデル

六章 小売店行動モデル

七章 中間業者モデル及び販売員行動モデル

八章 生産者意思決定とマーケティング情報システム

テキスト：拙著「マーケティング経営システム論」白桃書房

商業英語

非常勤講師 北村 正 司  
(小樽女子短期大学学長)

外国貿易の流れを体系的に展開し、貿易実務と英語商業通信文を統一的に講述し、実務に関する基礎的な知識の修得と商業英語の読解力および表現力の養成をはかりたい。

1. 英語商業通信文の構成と形式

2. 取引関係の樹立

3. 売買契約の成立

4. 売買契約の履行

5. 電報とテレックス

また商業英語の活用に必要な英文法の知識と感覚を養いたい。

テキスト：中村新吾「模範貿易英語」東洋経済新報社

証券金融論

教授 鈴木 満 直

国際金融と国内金融の接点を明確にしたあと、わが国のマネー・フロー表にもとづき、わが国を中心として、国内金融市場を構成する貨幣市場および証券市場の役割および位置づけを解説し、最後に、証券市場を機能の視点から分析する。

テキスト：拙著『ポートフォリオ理論と資本市場の機能』勁草書房

経営学原理

教授 篠崎 恒 夫

全ての企業における経営者が、自らの企業を十分に掌握し、万全なる経営をなせば、社会経済における不均衡は起らないかという疑問に対する答えの鍵を一つ一つ解明して行くのが、本講の狙いである。狭いハウトゥの経営に捉われずに、社会科学的視野において経営を考えて見たい。

1. 経営学の本質と課題

2. 経営学の生成と発展

3. 経営学の基礎概念

4. 経営管理の展開

5. 企業経営の諸形態

6. 経営者論

7. 官僚制論

8. 人間関係論

9. 行動科学的組織論

参考書

馬場克三著「経営経済学」税務経理協会

川崎・吉田編「現代資本主義と経営学説」ミネルヴァ書房

経営学説史

非常勤講師 高橋 正 泰  
(小樽商科大学短期大学部講師)

本講義は、アメリカで特に発展した経営管理論の展開に焦点をあてている。

今世紀初頭の科学的管理法から、人間関係論、行動科学、システムズ・アプローチそしてコンティンジェンシー・アプローチにいたるまでの系譜を論ずるものとする。

テキスト：D・A・レン車戸実監訳『現代経営管理思想—その進化の系譜—』  
(上・下)マグローヒル好学社

## 企業形態論

助教授 小田 福 男

### 講義内容

序—企業形態論の概観

1. 個人企業, 合名会社, 合資会社
2. 株式会社
3. 企業結合諸形態, 多国籍企業
4. 資本主義公企業, 協同組合企業
5. 社会主義企業

なお, 特に株式会社および社会主義企業について重点的に講義する予定です。

テキスト：大島国雄著『企業形態論』, 同文館, 1976年  
拙著『ソビエト独立採算制理論の展開』, 千倉書房, 1982年

参考文献：その都度指示します。

## 経営管理論

助教授 鷓 野 好 文

アメリカ経営学の生成過程を, 可能なかぎり詳細に検討していきたい。なお, 講義の内容は以下のとおりである。

### I INTRODUCTION

- A. Outline and Aims
- B. Required and Suggested Readings

### II THEORIES OF ORGANIZATIONS

#### A. Trends in the Studies of Organizations

1. Scientific Management : F. Taylor
2. Human Relations Studies :
  - a. E. Mayo et al.
  - b. K. Lewin

c. R. Likert

#### B. Weber's Theory of Organizations

1. The Ideal-type
2. Power and Authority

#### C. Case Studies of Bureaucracy

1. Functions and Dysfunctions of Bureaucracy :  
R.K. Merton
2. Rules and Types of Bureaucracies : A. Gouldner

#### D. Neo-Weberian of Organizations

1. Information Processing Model : H.A. Simon

### III THE COMPARATIVE STUDIES OF ORGANIZATIONS

#### A. Comparative Studies of Bureaucracies

1. Quantitative Studies as Multi-variate Analysis
2. A Return to Weber : Aston Study

#### B. Structural Differentiation and Environment

1. Organization and Technology : J. Woodward
2. Organization and Market : Lawrence & Lorsch, and  
A. Chandler

### IV FIRM THEORIES

#### A. Firm Growth and Corporate Strategy

1. The Roles and Position of Corporate Strategy in Firm
2. Firm Growth and Corporate Strategy
3. Managerial Resources and Corporate Strategy
4. Diversification

参考文献は, 必要に応じてその都度指示する

また, その他の事柄に関しても第一週目に細かく指示する。

## 労務管理論

助教授 林 伸 二

労務管理上の諸問題を最新の理論に基づいて説明・解明していきたい。同時に下記のテキストを批判・検討しつつ新しい労務管理論のあり方も探してみたい。加えて今年度は従業員の「仕事の価値意識」が個人, 職場集団および組織の業績にどのような影響を与えるのか, また生産過程の合理化は果し

て組織業績を高めうるのかといった問題を実証的研究の成果に基づいて理論的に解明する。

テキスト：W.L. French, The Personnel Management Process, 4th ed., Houghton Mifflin co. 1978

参考文献：問題の性質によって異なるが、著書・雑誌論文を多用する。

### 国際企業論 (夏季集中) 非常勤講師 井上忠勝 (神戸大学教授)

企業成長のための主要戦略として近年脚光をあびつつあるものに海外への直接投資ないし企業進出の戦略がある。世上、国際企業、世界企業、あるいはより一般的に多国籍企業の名をもって呼ばれているものは、この種の戦略を効果的に展開することに成功した企業である。

それでは企業は何故に、またどのようにして、海外企業進出を企てるのであろうか。また海外直接投資にともなって、企業はどのような経営上の問題に直面し、どのようにそれに対応しているのであろうか。内外企業の経験をふまえつつ、こうした点について検討を加えたい。

### 経営史 助教授 榎本 悟

今年度はトピックごとに比較経営史的考察を加えたいと思っている。教科書は指定しないが、講義で適当な論文等を指示するのでそれをよく読んでおくこと。

### 簿記学 A 講師 松本 康一郎

#### (1) クラス編成

次のとおり、受講者を学生番号によってA・B2クラスに分ける。

2・3・4年生いずれも：001～200はA，201以降はB。

#### (2) 講義内容

授業は、簿記の基本を習得し、あわせて、会計関係諸科目の基礎を得ることを目的としてすすめます。講義内容は、概略次のとおりです。

1. 複式簿記機構の基本原則
2. 企業複式簿記の記帳手続
3. 帳簿組織の基本

### 4. 株式会社企業簿記の基礎

#### (3) テキスト

沼田嘉穂『簿記教科書(再訂版)』(同文館, 昭和58年) および『簿記教科書 記帳練習帳』

#### (4) 参考書

片野一郎『簿記精説(上・下)』(同文館), 沼田嘉穂『完全簿記教程(I・II・III)』(中央経済社), 安平昭二『簿記要論』(同文館) および『初・中級簿記問題演習』(中央経済社)。

#### (5) 注意

会計関係諸科目の履修には、その前提として「簿記」の知識を有していることが必要です。本講義の履修上の注意については、最初の授業で詳しく述べます。

### 簿記学 B

(前期) 助教授 山本 真樹夫

(後期) 非常勤講師 渡辺 和夫

(小樽商科大学短期大学部助教授)

簿記とは、常識的には、たんに記帳技術であるといえるかもしれない。しかし今日の企業は複雑な財務機構を有し、そこでは多種多様な取引が行われる。したがって常識的な記帳によって企業の記録・計算を満足させることは到底できない。このため複式簿記が要請されるのである。

複式簿記は、理論にもとづき、取引を認識し、計算すると同時に、企業の多種多様な財務記録を有機的に統合する。さらには、決算により帳簿記録を総括し、貸借対照表、損益計算書などのもっとも基本的な企業情報を作成し、伝達する。したがって、複式簿記は理論に裏付けされていると同時に特定の技術によって成立せしめられている。

本講義では、かかる複式簿記の理論と技術を学んでゆく。なお、使用教科書の別冊である記帳練習帳による記帳訓練を行ってもらい、その成果を提出してもらう予定である。

[使用教科書]

沼田嘉穂著『簿記教科書』(同文館 1983) および同書別冊『記帳練習帳』

[参考書]

片野一郎著『簿記精説(上)(下)』(同文館 1977)

安平昭二著『簿記要論』(同文館 1978)

[履修できる者]

各学年とも学生番号 201 番以降の者

## 会 計 学

教授 久野 光 朗

最初の授業でガイダンスを行い、参考書の紹介などもいたしますが、授業内容を大別すれば次のとおりです。

§ 1 総 論

§ 2 測定論

収 益, 費 用, 資 産, 負 債, 資 本

§ 3 伝達論

§ 4 各 論

テキスト:

太田・飯野, 『会計学』(千倉書房, 1983) — 4月下旬発売予定

参考書—現在入手可能な標準的参考書:

黒沢 清, 『近代会計学』(春秋社)

山下勝治, 『会計学一般理論』(千倉書房)

飯野利夫, 『財務会計論』(同文館)

青柳文司, 『会計学の原理』(中央経済社)

黒沢 清(主編), 『体系近代会計学』(中央経済社)

神戸大学会計学研究室編, 『会計学辞典』(同文館)

## 監 査 論 (夏季集中)非常勤講師 三 沢 一 (成蹊大学教授)

この講義では主として商法特例法および証券取引法にもとづいて実施される財務諸表監査の基礎的諸概念および諸問題を解説する予定です。財務諸表監査は公認会計士(又は監査法人)によって実施されますから会計士監査と呼ぶことができますが、会社ではこのほかに監査役または内部監査人による監査も行われていますので、これらの監査についても若干触れることにいたします。

講義は、次の書物をテキストにして、下に掲げるような事項を中心に行う予定です。

テキスト: 三沢 一著「会計監査の理論」(中央経済社)

1 財務諸表監査は、どのような目的で実施されるか

2 一般に公正妥当と認められる監査基準とは何か

3 財務諸表監査をどのような方法・手続で実施するか

4 監査報告書には何を記載するか

## 原 価 計 算

助教授 福 島 吉 春

1. テキスト

松本雅男『原価計算』(国元書房, 1971) — 同書の出版年次はいささか古いですが、ユニークな主張が随処に見られる好著である。ただし講義内容が同書の立論と異なることはいうまでもない。

2. 講義内容

(1) 原価計算の基礎的諸概念

(2) 実際原価計算 — 費目別計算・部門別計算・製品別計算

(3) 標準原価計算

(4) 直接原価計算

(5) 営業費計算

授業では計算技術だけでなく、その基盤となっている管理思考や歴史的発展過程、記帳方法(工業簿記)も理解してもらおう。なお今年度は上記した内容のうち直接原価計算まで講義する予定である。また、最初の授業時間に講義内容および下記参考文献の解説を行う。

3. 参考文献

(1) テキストを理解するための基礎的文献 — ①岡本清編著『管理会計の基礎知識』, ②津曲・宮本編著『原価計算の基礎知識』(いずれも中央経済社), ③原価研究会編『原価計算テキスト』(同文館)。

(2) 理解を深めるための文献 — ①岡本清『原価計算(三訂版)』(国元書房), ②溝口一雄『最新原価計算講義』(中央経済社), また問題集としては③飯野・染谷編『明解簿記(1級工業簿記・原価計算)』(国元書房)。

## 経 営 分 析

助教授 中 善 宏

本年度の経営分析は、財務諸表分析をとり上げる予定です。簿記学、原価計算および会計学では、貸借対照表や損益計算書を中心とする財務諸表へ到

る過程で財務データをどう処理するかの学習が中心となりますが、ここではこのような会計システムの最終生産物である財務諸表をどのように利用するかについて講義します。

講義内容は、まず、財務データの準備、期間比較、企業間比較および財務比率の算出とその統計的処理と利用などの財務分析の基本的方法を講義します。

次に、これらの方法に基づいて最近議論されているいくつかの関連する分野をとり上げてみるつもりです。たとえば効率的資本市場仮説、ポートフォリオ理論と資産評価モデルさらには証券格づけ、企業失敗などです。

〔使用教科書〕

染谷恭次郎・木下照獄共著「経営分析—基礎と実践」昭和54年 森山書店

〔注意〕

この講義は、上記の説明から明らかなように簿記学の単位を修得し、さらに会計学の単位を修得済か、あるいは受講中の学生を対象としています。

## 外国語特殊講義

外国人講師 グンター・M・ホイマン  
(オタゴ大学教授)

## 財産法 I

教授 神田孝夫

民法典は5編から成り、そのうち第1編総則、第2編物権、第3編債権を財産法とよび第4編、第5編を家族法とよぶのが通例である。本講義では、財産法の前半の第1編と第2編が主要な対象となる。民法典は、私法の基礎法であり、講学上も、法律学一般に妥当する数多くの基本的な概念が登場する。その意味で、他の法分野を勉強する前提としても、これを十分に勉強することが必要である。対象領域が広大であるため講義内容が重要論点主義にならざるをえず、比較的理解の容易な部分は学生諸君の自習にゆだねることになると思う。

当然のことながら、私としては講義に最大限の努力をふりむけるつもりである。学生諸君もぜひ真剣にとりくんでほしい。

教科書：好美清光・米倉明編『民法読本1 総則・物権』有斐閣

参考書は開講時に紹介する。

六法全書は必携（どの出版社のものでもよい。ただし、試験の際には、判例や解説の付いている六法の持ち込みは許されないから、予め、この点を了解のうえ購入されるとよい。自習もしくは講義の受講用のためならばこのような六法をもつことはむしろ好ましいのだが。念のため。）

本年度は試験の方法を変更する。即ち、前期末に簡単な択一試験を行い、50点未満の者に対しては後期試験の受験を認めない。単位の認否にあたっては、後期試験の結果を重視する。

## 財産法 II

非常勤講師 松久三四彦

(小樽商科大学短期大学部講師)

債権法を講義する。債権法の講義は、債権法の通則に関する債権総論と、債権の発生原因に関する債権各論から成る。

教科書：我妻栄・有泉亨著「民法2」(一粒社)

参考書等については、講義の際にそのつど紹介する。

## 民事訴訟法

講師 中島弘雅

### 1 講義内容

民事訴訟とは、私人間の生活関係から生じる紛争(民事紛争)について、裁判所が法を適用して解決する手続をいうが、この講義では、まず最初に、そのうちの、訴えの提起に始まり、判決の確定をもって終る、いわゆる判決手続の概観を行い、その後、民事執行手続を概観する予定である。

なお、授業においては、民事訴訟の基本的枠組み・基礎的事項について主として通説的見解に従いながら、できるだけ判かり易く説明を行うつもりであるが、それと同時に、時間が許す限り、近時の民事訴訟法学の到達点をも学生諸氏に伝えたいと考えている。

### 2 テキスト

小室直人編著『民事訴訟法講義(改訂版)』(法律文化社)

3 参考書 小室直人＝賀集唱編『基本法コンメンタール・民事訴訟法〔新版〕』  
(日本評論社)

中野貞一郎＝松浦馨＝鈴木正裕編『民事訴訟法講義〔補訂版〕』(有斐閣)  
新堂幸司『民事訴訟法(第2版)』(筑摩書房)

## 会社法 教授 石原 全

現代経済において企業は不可欠の存在である。この企業形態には種々のものが存しますが、不特定多数人より資金を調達して営利活動をなすという会社形態が今日では一般的となっている。本年度は、この会社企業のうち、株式会社を中心として講義します。その際、商法、特に会社法ほど、この時代の経済的社会的状況に即応して種々の改正がなされる分野はないといわれるように、近時大幅な改正がなされていますので、この点を特に留意して講義します。参考文献を若干あげておきます。

河本：現代会社法(新訂第2版)(商事法務研究会)

鈴木：新版会社法(全訂第2版)(弘文堂)

服部：会社法通論(同文館)

上柳・北沢他編：会社法(1)(有斐閣双書)

会社判例百選(四版)(別冊ジュリスト80)

改正法解説につき、稲葉・改正会社法(金融財政事情研究会)：竹内・改正会社法解説(新版)(有斐閣)

## 商取引法 (前期) 非常勤講師 出口 正義 (小樽商科大学短期大学部助教授)

商法典の商法総則を中心に講義します。できるだけ判例などの具体的事例に即して進めることにします。

教科書：上柳・北沢・鴻・竹内編『商法総則・商行為法』有斐閣

## 商取引法 (後期) 教授 青竹 正一

後半は、商行為法を中心に講義します。商行為法は、商法第3編「商行為」を主たる対象としますが、できるだけ具体的事例に即して説明して行きます。

教科書：上柳他編『商法総則・商行為法(商法講義(1))』有斐閣

参考書：ジュリスト別冊『商法(総則・商行為)判例百選』有斐閣

## 有価証券法 教授 青竹 正一

有価証券の代表的なものである手形および小切手に関する法律上の問題を中心に講義します。手形および小切手は、取引の手段としてきわめて重要な作用を営んでいるので、それを規整する手形・小切手法を知る必要性は高いといえます。講義では、手形・小切手法の基礎理論を述べたのち、約束手形、為替手形、小切手の具体的法律問題を説明して行きます。なお、判例が理論および実務を知るうえで重要となるので、関係の判例はできるだけとりあげる予定です。

教科書：上柳他編『手形法・小切手法(商法講義(4))』有斐閣

参考書：ジュリスト別冊『手形小切手判例百選(第3版)』有斐閣

## 憲法 助教授 結城 洋一郎

「憲法」という法形式が成立する歴史的な過程と意義を学び、わが国の憲法については、基本的人権を中心に具体的裁判例を参照しながら講義を行う。

講義内容

I 序論— 憲法とは何か。

II 日本の憲法

- |             |                |
|-------------|----------------|
| (1) 明治憲法の特徴 | (2) 国民主権と象徴天皇制 |
| (3) 平和主義    | (4) 基本的人権      |

テキスト：清水睦他『憲法講義1』、大須賀明他『憲法講義2』有斐閣

参考書：『憲法判例百選I・II』(別冊ジュリスト)有斐閣

『憲法の争点』(ジュリスト増刊)有斐閣

以上は六法とともに必ず入手されたい。六法は必携のこと。

その他：阿部照哉他『基本的人権の歴史』(有斐閣新書)

芦部信喜編『憲法II・III』(有斐閣大学双書)

奥平康弘他編『テキストブック・憲法』(有斐閣ブックス)

## 行政法 I

助教授 秋山 義昭

具体的なケースをとりあげながら、行政法の全体を体系的に講義する。行政法は、憲法・民法の知識を不可欠とするので、受講者はこれらの科目についてすでに相当の成績で履修済みであることを要する。

テキスト：遠藤・熊本・秋山・畠山「教材行政法判例」(北大図書刊行会)

参考書：今村成和「行政法入門(新版)」(有斐閣双書)

田中二郎「新版行政法(全訂第2版)上」(弘文堂)

成田ほか「現代行政法」(有斐閣双書)

原田ほか「行政法入門」(有斐閣新書)

室井ほか「行政法を学ぶ1・2」(有斐閣選書)

なお、講義の最初の時間に、講義内容を紹介したプリントを配布する。

## 行政法 II (前期) 非常勤講師 猪股 弘 貴

(小樽商科大学短期大学部講師)

主に行政組織法について講義をする予定である。国家行政組織、地方自治、公務員法が主な内容となる。

## 行政法 II (後期) 助教授 結城 洋一郎

行政組織法につき、前期——猪股、後期——結城で担当する。後期は、日本国憲法第四章以下(いわゆる統治機構)を中心に講義を行う。講義の細目については、前期の進捗状況に合わせて決定したい。

テキスト：前期終了前に指示する。

※ 民主主義国家において、統治機構は人権保障のための制度・組織であるから、人権保障の観点を捨象して徒らに現行制度を暗記してもあまり実りがあるとは思われない。この意味で、「行政法II」の受講生は、併せて「憲法」を受講されることが望ましい。

## 経済法 助教授 和田 健夫

経済法は独占禁止法をはじめ、市場経済に対する国家の介入に関する一連の法律により構成されており、企業活動のルールを定めるものとして最近とくにその重要性が認識されつつある。講義は独占禁止法を主として取り扱う

が、他の諸法律もこれと関連させながら解説する予定である。独占禁止法は抽象的な規定が多く、難解な法律なので、下記のテキストを用い、具体的な適用事例を検討しながら、同法の基本的な考え方や機能を理解していただくことにする。

テキスト

実方・厚谷他著「教材独占禁止法」(青林書院社、近刊)

実方謙二 「独占禁止法入門」(青林書院新社)

参考書(経済法に興味をもち、より深く勉強したい者のため以下の文献をすすめる。その他講義中に指示する)

今村成和 「独占禁止法」(法律学全集52巻II, 有斐閣)

金沢良雄 「経済法」(法律学全集52巻I, 有斐閣)

正田 彬 「経済法の性格と展開」(日本評論社)

実方謙二 「独占禁止法と現代経済」(増補版, 成文堂)

実方・正田(編)「独占禁止法を学ぶ」(有斐閣)

## 経済刑法 助教授 振津 隆行

本年度は、「刑法各論」に重点を置き、判例その他で問題となった諸事例を引用・参照しつつ、可能なかぎり個別・具体的な説明を加えて、刑法をはじめて学ぶ人にも理解しやすい講義を進めていく予定です。その際、中心となるのは経済事犯ということになりますが、さらに、その根幹にある「刑法総論」的な基礎的諸原理についても解説したいと思います。

テキスト：未定(開講時に指示する)

参考書など：別冊ジュリスト『刑法判例百選I, II』(有斐閣)

同 『刑法の判例(第二版)』(同)

同 『刑法の争点』(同)等。

## 労働法 講師 島田 陽一

労働法をできるかぎり実例(判例等)にそくして検討していく。講義の順序は以下のとおりである。

① 労働法総論(歴史、理念等)

② 集団的労働法(労働組合法、労働関係調整法を中心に)

③ 個別的労働法(労働基準法を中心に)

ただし、労働法学上のすべての問題を網羅的に講義することはできないので、それぞれの領域での主要な論点をとりあげて論じていくことになる。

テキスト：有泉亨編『労働法概説』（新版）有斐閣

なお、小六法を必ずもってくる。また、新聞は、労働法の生きた教材でもあるので、目を通しておいて欲しい。

## 環境法 助教授 飯塚和之

前期は「不法行為法」を対象とする。不法行為法は民法709条～724条の諸規定およびいくつかの特別法から成っている。社会問題ともなっている公害賠償、医療過誤、薬害、交通事故損害賠償、製造物責任、学校事故、名誉・プライバシー侵害、労働災害等々、多くの課題が存在する。本講義では、(1)不法行為法の基礎理論、(2)不法行為法各論、(3)不法行為法の将来を検討してみたい。

後期は「環境法」を対象とする。環境法は生成途上の学問分野である。本講義では、(1)環境法の課題、(2)環境法の生成と展開、(3)環境法の体系に分けて、検討する。

テキスト・参考文献：前期はテキスト不使用。参考文献：幾代通『不法行為』（筑摩書房）、前田達明『不法行為法』（青林書院新社）、遠藤浩ほか『新版民法7』（有斐閣双書）、平井宣雄『現代不法行為理論の一展望』（一粒社）  
飯塚・堀田共訳『イギリス不法行為法の基礎』（成文堂）など。

後期テキスト：原田尚彦『環境法』（弘文堂）

## 国際法 講師 中村 恵

（講義の内容）

国際社会における法秩序全般について、以下の順序で検討します。

1. 国際社会と法
2. 国際法の源泉
3. 国際法の主体
4. 国際法と個人
5. 外交関係
6. 領域法
7. 条約法

## 8. 国家の責任

## 9. 国際紛争の解決

（テキスト及び参考書）

特定のテキストは使用しませんが、以下の参考書を読んでおくことは、講義を理解するために有益と思われます。

1. 田岡良一著『国際法(全訂版)』（勁草書房）
2. 大平善悟・皆川洸編著『国際法講義』（北樹出版）
3. 波多野里望・小川芳彦編著『国際法講義』（有斐閣大学双書）

## 国際機構論 (前半) 教授 大谷良雄

(夏季集中) 非常勤講師 筒井若水

(東京大学教授)

## 国際資源論 助教授 清水章雄

国際資源紛争の予防及び解決における法の役割について、以下の順で講義を行う。

- 一. 総論
  1. 序
  2. 資源紛争の処理
- 二. 各論
  1. 一次産品
  2. 石油
  3. 核物質
  4. 海洋資源

講義内容全般にわたるテキストはないが、海洋法の参考書として、高梨正夫『海洋法の知識』（成山堂）、高林秀雄『海洋開発の国際法』（有信堂高文



社), 同『領海制度の研究(第2版)』(同) などがある。

## 国際経済法

助教授 清水章雄

国際経済活動に関連する法律問題を扱う。財産法Ⅰ, 財産法Ⅱ, 民事訴訟法, 会社法, 経済法及び国際法を prerequisite な科目とする。テキストとして曾野和明『多国籍企業問題入門—既存社会科学秩序への挑戦—』(青林書院新社) 及び B. グロスフェルト 山内惟介訳『多国籍企業の法律問題—実務国際私法・国際経済法—』(中央大学出版部), その他に高野雄一・小原喜雄編『国際経済条約集』(有斐閣) を使用する。

なお, 曾野『多国籍企業問題入門』については, 5月中旬に試験を行う予定なので, それまでに読了しておくことが必要である。

## 管理科学通論

非常勤講師 浅利英吉  
(東海大学助教授)

近代の組織体の運営とその社会への対応は, 既に人智を結集した科学の対象となっており, 管理科学の名はここに由来する。管理科学通論ではまずこの学問と技術の連峰を広く展望し, ついでその脊梁山脈を形成している確率論・数理統計学へ入門する。ついでいくつかの数理手法—たとえばシミュレーション, 予測, 線形計画法—をえらび, その理論と実際を論ずることを通じて, 管理科学を学ぶ基礎をやしなわしめるものとする。

## 管理科学Ⅰ

助教授 若林信夫

本年は, 管理科学の方法論を用いて, エネルギー問題にアプローチする。

### 1. エネルギー問題の定式化と解法。4月—9月。

エネルギー経済モデルには, 計量経済学モデル, 数理計画モデル, システムダイナミクスモデルがあるが, このうち, とくに, 数理計画モデルを考究する。

エネルギー経済学入門, 経済分析の基礎, 弾力性, 回帰分析, 差分方程式, 線形計画(輸送問題), 2次計画(不確実性下の意思決定), 非線形計画など。

### 2. エネルギーデータベース。10月—12月。

エネルギー問題理解のためのデータベース構築と利用。

産業連関論, データベース要論, エネルギーデータの正規化, 格納, 復元, ソフトウェア, エネルギーデータベースシステム。

### 3. エネルギー問題についての個人プロジェクト。1月—2月。

ワープロ, ドキュメンテーション, (卒業)論文の書き方。

試験: 9月 1回

レポート: 2月29日締切り

他に2回

参考文献: 「オペレーションズリサーチ」, “Operations Research”,

“Omega”等の専門雑誌のコピーを適宜, 配布する。

受講者は, 計算センターのアカウントをとっておくこと。

## 管理科学Ⅱ

教授 樋口透

ORは, 企業の科学的管理を指向したものであるが, 本論では, もう少し広く, 社会システムに焦点をあてる。つまり, 社会に存在する矛盾や不合理性が何であり, またそれらをどのように解決し, 調和のあるシステムとして存続させるか。このような観点からORおよびシステム論を考える。

比較的新しい分野であり, 市販の文献にない理論や手法も解説するので講義に出席し, その場で理解することが肝要である。なお, 演習問題を課するのでコンピュータのプログラミングに習熟しておく必要もある。

教科書(前期): 鈴木光男・中村健二郎「社会システム」共立出版

後期は教科書を用いない。

## 管理科学Ⅲ

(前期) 教授 戸島 熙

作用型算法言語論の基礎的かつ理論的な側面を論じる。具体的には, ラムダ算法, 万能関数, 表示的意味論などを話題とする。かなり専門的ではあるが, 管理科学の学生ならば一通りは心得ておかなければならない“原論的”な事柄であると思われる。

参考文献は講義で紹介する。

## 管理科学Ⅲ

(後期) 教授 沼田 久

オペレーションズ・リサーチのなかの若干の分野をとり上げる予定である

が、受講者数の多少によって内容・やり方を変えることもある。例年、受動的な受講態度の者が多いので仲々うまく行かないが、いくつかの問題や話題について討論できたら良いとも考えている。前期の講義内容とは殆んど関連はないので、そのつもりで受講すること。

## 機械化会計

教授 山田 一生

機械化会計とは、その言葉の通り理解すれば、機械化された会計を意味する。より具体的には、会計処理の機械化を意味するのであり、伝統的には会計組織論の研究領域として認識されてきたのである。今日的には、会計学全般にわたる情報システムズ・アプローチの台頭によって、かなり広範囲の研究領域を包摂するものと言えよう。この研究領域は、1965年のAAAの「基礎的会計理論」(A Statement of Basic Accounting Theory)の表明以来、伝統的会計理論に対する強烈なインパクトとして認識され、Accounting Information Systemsあるいは情報システムとしての会計を指向する「会計情報システム」へと発展されるのである。

このような会計研究に関する学術的アプローチの結果、伝統的企業会計制度としての会計システムは、とくにコンピューター・インパクトおよび情報科学の影響によって、新しく会計情報システムとして展開される。すなわち、会計情報システムは企業の経営管理に関して、(1)事後計算(報告的会計)、(2)現在計算(管理的会計)、(3)事前計算(予測的会計)のそれぞれの情報を提供し、経営意思決定に役立つ情報システムとなる。さらに、最近における、DB/DC(Data Base/Data Communication)に関するソフトウェア技術分野での発展に伴って、「計画策定と予算編成プロセスへの意思決定支援システム」(Decision Package Programmes)の実証的研究なども登場したのであり、財務計画を中心とする Decision Support Systemsの研究領域などは、今後ますます重視されるべき発展方向となるであろう。

本講座における具体的な講義内容としては、(1)会計処理におけるコンピューターの位置づけ、(2)会計とコンピューター・プランニング、(3)会計とコンピューター・オペレーション、(4)会計とコンピューターライズ MIS、(5)コンピューター時代の会計として、その体系化をはかる意図をもつが、講義と演習とを同時併行させる方式を実現できるよう配慮することにする。すなわち、演習プログラムの主要なものとしては、(I)仕訳プログラム、(II)勘定記入プログ

ラム、(III)試算表プログラム、(IV)精算表プログラム、(V)修正財務諸表プログラム、(VI)デジジョン・パッケージ・プログラムなどについて、COBOL言語を中心とするDB/DCアプローチを展開する予定である。これらの同時併行作業を通じて、会計情報システムの原理的ならびに実証的研究をはかり、会計情報システムの基本的設計を究明するとともに、さらに、機械化会計の諸問題についても論述する。

主要参照文献ならびに参考文献については、きわめて多数のものを列挙する結果となり、標準的なテキスト・ブックを指定することは、とうてい困難である。したがって、講義の中で必要に応じて、その都度紹介する。

## 情報処理

助教授 杉本 英二

今年度の講義は、コンピューターを離れて、情報の認識と通信をテーマにする。特に、パターン認識・符号理論の基礎と、それらの処理のための順序機械について講義する。

テキスト：今井秀樹「情報数学」, 昭晃堂

## 応用数学(代数)

教授 沼田 久

経済学、管理科学、統計学等の勉強を進めるために必要な線形代数学を講義する。ベクトル空間、行列、行列式、線形不等式、凸集合等々の諸概念に慣れること、行列やベクトルを含む演算に慣れること、線形計画問題の解法の初歩に触れること、線形代数が経済学や経営科学にどのように応用されているかを知ることなどである。計算機論I、応用数学(解析)とともに、管理科学科の学生は必ず履修することが望ましい。

高等学校的な数学の得手・不得手とはあまり関係はないが、若干の数学的センス(論理的能力と言ってもよい)または、ある程度の根気が必要である。

当然のことながら、最後まであきらめずに頑張り通す者に好意を寄せたくなるのは人情である。しかしながら大学は一定以上の能力を身につけた人間を送り出すことを世の中に期待されているのであるから、単に6単位欲しさから受講するというような者は、一年間を無駄にすることになることを覚悟しておくこと。

教科書：沼田 久『線形数学序説』(学術図書出版社, 1979)

## 応用数学(解析)

非常勤講師 小林 正 忠

(元北海道大学教授)

講義の内容を決定することは担当者の苦勞するところである。何を講義するかその要目は、は100分授業30回という物理的条件があるから容易に決定出来る。残された問題は内容の深さの問題であろう。内容のある講義であるか否かの測定方法をここでは示しておきたい。「受講学生と非受講学生との間に年度末には実力の差が極めて大きい」のが内容ある授業で、「受講者と非受講者との間に力の区別がない」のが内容のない講義というべきである。

### テキスト

松田 正一

洲之内治男 } 共著 ORのための基礎数学第3巻 丸善

杉山 昌平

### 講義内容

#### 前期 差分方程式

- |           |                  |
|-----------|------------------|
| 1 差分      | 4 差分演算子と和分演算子    |
| 2 和分      | 5 微分演算子と差分演算子の関係 |
| 3 線形差分方程式 | 6 経済学への応用        |

#### 後期 微分方程式

- |          |               |
|----------|---------------|
| 1 求積法    | 4 初期値問題と境界値問題 |
| 2 線形微方程式 | 5 ラプラス変換      |
| 3 微分演算子  | 6 経済学への応用     |

### 参考書

- 1 杉山昌平著 差分方程式入門 森北出版
- 2 高橋健人著 差分方程式 培風館

## 応用数学(統計 I)

助教授 清水川 緋紗子

教科書: 多賀保志著『統計的推論』推定・検定・予測(山海堂)

数表: 日本規格協会『統計数値表』コンサイス版

## 計算機論 I

(前期) 助教授 杉本 英二

前期の計算機論 I の役割は、初心者に対するコンピュータ利用の入門であ

る。コンピュータの利用のために、人間はどのようにそれを使うかという手続を明確に伝えることが重要である。この目的のために使われるのが、プログラム言語とよばれるもので、利用目的別に様々な言語がある。Cobol は事務計算、Fortran は科学技術計算、Lispは記号計算、Prologは論理計算が得意である。さらに、Pascalはプログラムのスタイルを気にする人がよく使う。

英語、仏語、日本語などのように、人々が使うことばにはそれぞれ異なった表情があるように、プログラム言語もそれぞれに特徴がある。また話す人間のことばに表情があるように、同じ言語でも、書いた人によってプログラムの表情が違う。このようなおもしろさを学生諸君が体験できたらよいだろう。

でも、大半の学生諸君にとってはコンピュータは未知なるもの(UFO)であるだろうから、計算センターのコンピュータと毎週数時間は親しみをこめて対面しなければならぬ。そのために各人の時間割のどこかを一つか二つ予約しておきさえすれば、6単位は確実に君のものになるはずだ。

テキスト: 細井, 嶋田「FORTRANによるプログラミング入門」産業図書

## 計算機論 I

(後期) 助教授 若林 信夫

3つのプログラム言語、Pascal, LISP, APLの導入部を実例を交えながら講義する。言語の自在な活用と演習は、受講者の自習に任せる。

なぜ計算機が使われねばならないか、どんな問題が未解決か、問題の解決過程、算法、計算機の効率的利用法をプログラム言語とともに考える。

Pascalは、PASCAL8000, LISPは、畝見LISPかCambridge LISPを用いる。自習書を後期開講時まで指定する。3回、自習ノートを提出して貰う。

受講者は、日頃、テレビ、ラジオ、雑誌のメディアや計算センターの講習会に積極的にアクセスすることが望まれる。

## 計算機論 II

教授 戸島 熙

リスト処理言語Lispを基軸にして、データ構造について論じる。そのさい抽象データ構造の重要性を強調し、プログラミングにおいて、いかに abstraction が大切であるかをいくつかの実例で示す。

参考文献は講義で紹介する。なお、年間約20題程度の演習問題を課す。

## 6 教職科目

### 教育原理

助教授 増井三夫

人間形成の社会的過程を広義に於ける教育作用の社会的統制機能に焦点をあてて国家及び共同体がどのようにして民衆の意識の形成に働きかけていったか、その際の具体的方法はどのようなものであった等々を検討する。

### 教育心理学

非常勤講師 湯浅誠哉  
(北海道薬科大学助教授)

「教育心理学」は学校教育に携わる者には勿論必須の学問である。この学問はそれにとどまらず、広く家庭、職場等あらゆる社会における教育、学習、訓練、自己啓発、人間関係の改善にきわめて有益な理論と方法を提供する。

本講では、上のような事柄を考慮しながら、発達、学習、知能、人格(性格)、適応、さらには、今日の青少年の社会病理現象、精神衛生の問題を取り扱う。

教科書として英文のものを予定している。

### 教育史

助教授 増井三夫

近代民衆教育の成立形態をとくにイギリスとプロイセン・ドイツの事例を比較しながら、プロイセン型の特徴を明らかにする。

### 職業指導

非常勤講師 石井茂  
(元北海道教育大学教授)

1. 職業指導の問題所在
2. 職業指導と進路指導
3. 職業と教養
4. 職業指導の史的考察—職業指導運動とその背景を中心として—
5. わが国における職業指導の史的考察
6. 職業指導の理論
7. 職業適性、心理学的諸検査
8. 産業構造、職業構造
9. 青年の職業意識・変化 職業選択
10. 職業指導(進路指導)の現状と問題

講義は最初に、職業指導の問題所在をのべ、以下それにそって、講義を進めていくが、都合により変更することもあるので申添えます。

## 英文学史

教授 永原和夫

Waldo Clarke: *A Short History of English Literature*  
(金星堂 ¥1,700)

英語による文学の歴史的概説を行なうが、受講者には戯曲または散文による作品を最低3編は読んでもらう。

### 英文学演習 I

助教授 君羅久則

上島建吉編注, *English Romantic Poetry—an Anthology—*  
(研究社 ¥720)

参考書: 志子田光雄著『英詩理解の基礎知識』金星堂

大山敏子著『英語修辞法』篠崎書林

斉藤勇著『英詩概論』研究社

斉藤勇著『英米文学辞典』研究社

### 言語学概論

(前期) 助教授 下村五三夫

主としてLinguistic Phoneticsを扱います。前期の目標としては、Computer-Assisted-Spectrographyの技法を身につけ、Voice Printから音韻を視読できるようになることです。更に時間にゆとりがあれば、コンピューターによる文法処理の技法も扱います。参考文献として以下を指定します。

Peter Ladefoged: *A Course in Phonetics*, Harcourt Brace Jovanovich, Inc.

### 言語学概論

(冬季集中講義) 非常勤講師 池上二良  
(北海道大学教授)

人間のことばというものについて、言語活動、言語記号、言語体系、言語変遷のような目次を追いつつ、述べて行きたい。筆記帳携帯のこと。

### 英語学演習 I

講師 高橋英光

G. N. Leech: *Meaning and the English Verb* (Longman)

時制・法・相といった英語の主体的表現の持つ諸問題を扱ったものであるが、英語学書に慣れていない学生諸君には必ずしも容易な記述ではないということ付記しておく。

### III 研究指導要項

#### 麻田教官担当研究指導

4年度生：卒業論文の個別指導

#### 足立教官担当研究指導

##### 1 研究課題

国際金融に関する諸問題……国際金融市場、オフショア・センター、金利先物取引など。

##### 2 指導要項

(イ) 全般……小樽商科大学の卒業生として恥かしくないだけの国際的視野と語学力の養成に重点を置く。

(ロ) 3年次…国際金融の基礎理論と実際およびこれらに関連した語学力の養成、3年次生は必ず国際金融を履修し、単位を取得すること。万一単位を取得できない場合は、自動的にノンゼミに移行する。

(ハ) 4年次…個別的研究指導および卒業論文。

##### 3 指導テキストおよび参考書

(イ) 3年次…講義のはじめに指示する。

(ロ) 4年次…プリンストン大学国際金融双書などを用いる。

#### 井上教官担当研究指導

##### 1 研究主題

British Economic History in the 19th Century

##### 2 指導要領

3年次および4年次の前半まで約1年半をかけて、19世紀のイギリス社会経済史に関する標準的な文献(英文)を輪読します。4年次前半にはまた、卒業論文作成準備のため、わが国の研究文献も併読する予定です。4年次後半は卒業論文の作成指導に重点をおきます。なおまた、大学院進学

希望者には、ゼミナールのほかに別途指導の措置をとる予定ですので、希望者はその旨、早目に申し出て下さい。

##### 3 テキスト

J.D. Chambers, *The Workshop of the World—British Economic History from 1820 to 1880*, Oxford university Press, 1961.

#### 早見教官担当研究指導

1 研究主題 財政理論、租税論および財政政策に関する諸問題。

2 指導要領 3年次(昭和58年度)には、まず以下の文献を読む。

Dornbusch & Fischer, *macroeconomics* (McGraw-Hill Kogakusha, 2nd ed., 1981).

4年次には、各自が選択したテーマにそって、卒業論文の要旨をレポートしてもらう。

3 申込の条件 (1)経済学概論を履修済みのこと。(2)数学、統計学を履修すること。(3)英語力があること。(4)経済学科に所属すること。(5)10名以内で締切る。

#### 久次教官担当研究指導

1 研究主題 統計学の数理的方法論に重点をおく。

##### 2 指導要領

3年次：テキストの講読・討論・演習。

4年次：追加文献の講読および卒業論文の作成。

##### 3 指導テキスト

3年次(昭和58年度)：H. Theil, *Principles of Econometrics*.

##### 4 申込みの条件

「統計学」を履修中の者。

##### 5 その他

(1) 解析学(偏微分など)、線形代数(逆行列、固有値など)、プログラミング(FORTRAN)については、2年次までに修得しておくこと。

- (2) 3年次において「数理統計学」を履修すること。また「計量経済学」を履修することが望ましい。

### 藤井教官担当研究指導

今年は3年次も4年次もドーンブッシュとフィッシャーの『マクロ経済学』（第2版）を読むことから始めますが、4年次は残り半分を半年であげて、卒論にかかっています。3年次生は、教室内では主として問題だけを解くことにしたいと思います。

### 増井(幸)教官担当研究指導

#### 1 研究主題 政府の経済的役割についての理論的・実証的研究

今日の世界経済の混迷は各国経済の内部矛盾の産物に他ならず、各国経済の内部矛盾は「大きな政府」により再生産されているという仮説を理論的・実証的に検討してみようとする。

#### 2 指導要領

第1年目：基礎的文献の輪読

第2年目：個別研究発表と卒業論文の作成

#### 3 テキストおよび参考書

テキストとして、スティグラー著『小さな政府の経済学』東洋経済新報社（昭和56年）から読み始め、スティグラー著『産業組織論』東洋経済新報社（昭和50年）、八代尚宏『現代日本の病理解明』東洋経済新報社（昭和55年）、上野裕也『日本の経済制度』日本経済新聞社（昭和53年）、フリードマン著『資本主義と自由』マクロウヒル好学社（昭和51年）……を参考、検討材料とする。

### 吉武教官担当研究指導

#### 1 研究主題

社会政策及び工業経済学の諸問題

#### 2 指導要領

(イ) 3年生は下記英文原書の2冊のうちいずれか一冊をよむ予定。

(ロ) 4年生は各自卒業論文にとりかかる。

#### 3 指導テキストおよび参考書

A. Marshall, *Principles of Economics*, (8th ed; London: Macmillan) Papermac.

#### 4 申込みの条件

1. 経済学概論履修済み者及び2年次で経済学概論履修中のものに限る。
2. 経済学科所属のものを採用する。
3. 学科所属決定の際の1年次の成績が悪い者はとらない。

#### 5 その他

採用人員は12名程度。ゼミナールを許されても無断欠席連続3回行った場合除名する。

### 長谷川教官担当研究指導

#### 1 研究主題

日本経済史のうち、近世末期(天保期～幕末・維新时期)。

#### 2 指導要領

3・4年次——下記テキストの講読と史料の検討。卒業論文のテーマは上記主題に限定しなくともよいが、3年次末までに方針を立てること。

毎週かなりの量の論文や史料を読むことになるので、中以上の漢和辞典・古語辞典および大型の国語辞典が必要になる。なお江戸時代の史料の多くは、文語文に近い漢文である。

#### 3 指導テキストおよび参考書

入門——津田秀夫著『日本歴史』第22巻、天保改革、小学館。

史料——乾宏巳編『史料大系・日本の歴史』第6巻、幕末・維新、大阪書籍。

テキスト——『講座日本近世史』第6巻、天保期の政治と社会、第8巻、幕藩制国家の崩壊、有斐閣。

#### 4 申込みの条件

歴史学・経済史概論・社会思想史・経済原論Ⅱ等を履修していることが望ましい。

その他

積極的な研究意欲と行動力を期待する。またゼミナールとしての共同の作業や行動を大事にしてほしい。

### 鷗沢教官担当研究指導

#### 1 研究主題

理論経済学

#### 2 指導要領

3年次では、外国書（英語）による学習およびその他の論文を読む予定。

4年次では、個別テーマに基づく卒業論文作成のための報告と討論を中心にする。

1982年3月卒業生のテーマは、「スタグフレーションの理論と現状」、「複占における市場形態」、「ゲーム理論」、「レヴィールド・プリファレンス」、「経済循環の基本構造」、「プロ野球の所得分析」、「レーガン登場後のアメリカ経済学の流れ、供給の経済学」である。

1983年3月卒業生のテーマは、「一般不均衡理論——不完全雇用均衡の存在についてのミクロ理論的基礎づけ——」、「エネルギーと未来」、「1980年代の日本経済展望」である。

#### 3 指導テキスト

Malinvaud, E., *Lectures on Microeconomic Theory*, North-Holland, (1980年度使用)。

Kogiku, K.C., *Microeconomic Models*, Harper and Row, (1981年度使用)。

Russel, R.R. and M. Wilkinson, *Microeconomics, A Synthesis of Modern and Neoclassical Theory*, John Wiley, (1982年度使用)。

#### 4 申込みの条件

経済学概論、数学を履修済で、経済原論 I を履修中または履修済の事。

### 遠藤教官担当研究指導

#### 1 研究主題

計量経済分析

#### 2 指導要領

3年生：テキストの講読

4年生：テキストの講読と卒業論文の作成

#### 3 テキスト

3年生：Phlips, *Applied Consumption Analysis*, 1974.

4年生：Dhrymes, *Introductory Econometrics*, 1978.

#### 5 その他

### 佐竹教官担当研究指導

#### 1 研究主題

国際経済学

#### 2 指導要領

3年生はテキストの輪読。4年生は個別テーマによる卒業論文作成指導。

#### 3 テキスト

Kindleberger and Lindert, *International Economics*, 1982.

### 小平教官担当研究指導

#### 1 研究主題

理論経済学（とりわけミクロ理論と応用）。

#### 2 テキスト

Paul A. Samuelson; *Foundations of Economic Analysis*, Enlarged Edition (1982, Harvard University Press)

#### 3 申込みの条件

ゼミ開始時までには経済学概論、経済原論 I の単位を修得する見込みのあること。ゼミのために十分な時間のさける方に限る。

#### 4 その他

ゼミ室では禁煙です。

## 今教官担当研究指導

- 1 研究主題  
金融理論および金融政策
- 2 指導要領  
3年次：文献の輪読  
4年次：卒業論文の作成
- 3 テキスト  
J. Tobin の最近の論文および著書。

## 石原(定)教官担当研究指導

- 1 全般的な研究指導領域  
金融・証券市場の研究を通じて、現代の金融資本と管理通貨制度の本質を解明する手がかりを得る。
- 2 3年生の指導方針及びテキスト  
現代経済社会に対する興味を引き出すために、金融革命の実態を教える。日本語では、日本経済新聞社編の『金融革命』が既に出ており、過去の足取りは十分理解しうる。しかし、最近のアメリカにおける金利自由化への激しい動きは、色々な雑誌論文を読んで理解せねばならぬだろう。したがって、私が収集しつつある資料を選んでテキストにしたいと思う。
- 3 4年生の指導方針  
ゼミの2年目では、理論的なテキストを選んで論理的思考方法を教え込みたい。現在4年生は自主的に勉強してくれているので、最後はがっちりと集中して指導し、社会に対する理解能力を飛躍的に昂めてやりたいと思っている。その上で自己の興味ある領域におけるテーマを決めて卒業論文とするよう希望する。

## 久野教官担当研究指導

- 1 研究主題  
会計学（簿記学をふくむ）

- 2 指導要領  
3年次：わが国の『企業会計原則』の批判的研究と外書講読を中心にして基礎的知識を修得させる。  
4年次：卒業論文の指導—各人の発表をもとにしてディスカッションを行う。
- 3 指導テキストおよび参考書  
3年次の後半において使用する外書は学生諸君と相談のうえ決定する。
- 4 申込みの条件  
2年次終了時において語学その他の基礎教育科目の所要単位を取得し、かつ簿記学の単位を優秀な成績で取得可能な者。
- 5 その他  
ゼミという組織にかんがみ、ゼミに求める以上にゼミに貢献できる人物を望みます。

## 斎藤教官担当研究指導

- 1 研究主題  
商品の価値をミクロ的には品質要因、価格要因、流通活動要因（広告など）、さらにマクロ的には資源環境要因、生活環境要因とも関連づけて追求する。
- 2 指導要領  
(イ) 三年目：上記の主題に関する原書や論文を講読し、報告、討論を通じて理解を深める。  
(ロ) 四年目：個人テーマによる文献講読と卒業論文の指導。
- 3 指導テキスト及び参考書  
L. ABBOTT: Quality and Competition (1978)  
その他、商品政策、広告論、社会生態的マーケティング等に関する参考書

## 篠崎教官担当研究指導

- 1 研究主題  
バーナード組織論と人間行動



管理組織論の古典と称されるC. I. バーナードの組織論を中心に、そこで提起される問題を取り上げる。一つは官僚制であり、一つは疎外論である。

2 指導方針

2 当初、基礎的な社会科学的ものの考え方を固め、漸次具体的組織論へと進み、最終的には卒論作成へと導く。

3 テキスト

大塚久雄「社会科学の方法」、内田義彦「社会認識の歩み」、同「資本論の世界」以上岩波新書、C. I. バーナード「経営者の役割」ダイヤモンド社、三戸公「官僚制」春秋社。

鈴木教官担当研究指導

1 研究主題

International Business Finance

2 現在使用しているテキスト

R. I. McKinnon, Money in International Exchange 1979.

テキストは必ず外国書(英語)を使用する。

山下教官担当研究指導

1 研究主題

マーケティング経営システム論。今年度の重点対象領域は、販売員活動の理論とします。

2 指導要領

(イ) 基本的文献の講読。(ロ) モデル・ビルディングとその操作。

(ハ) 卒論指導。

3 テキスト

3年次生: G. M. Grikscheit etc "Hard book of Selling" 1981, Wiley

4年次生: 雑誌論文。

和田(完)教官担当研究指導

精神障害と職業

精神障害の準備因としての労働環境、職場における人間関係、職種、失業等々の要因を、心理学的、あるいは社会病理学的な立場から考察し、その原因の分析、治療、予防等への接近を試みる。

文献は随時指定(貸与、コピー、購入かをその都度指示)し、できるだけ多読してもらう。また、関連施設の見学、実地調査も並行して行われよう。

鶴野教官担当研究指導

研究主題: 経営組織論

指導要領: 2年間を三期に分ける。

(1) 組織論の知識を習得するため、適当な文献を指定し、それを各自分担して報告してもらう。

(2) 組織現象の測定に必要な統計的手法を習得するため、適当な文献を指定し、それを各自分担して報告してもらう。

(3) 組織現象を実際に測定し論文を作成してもらう。

指導テキスト: 3年次、清水龍堂、『企業行動と成長要因の分析』、有斐閣  
芝祐順、『行動科学における相関分析法』、東京大学出版会  
岩田暁一、『経済分析のための統計的方法』、東洋経済新報社

その他: 上記のテキストはあらかじめ購入しておくこと。

小田教官担当研究指導

1 研究主題

企業形態論にかかわる諸問題

2 指導要領

3年次-前半は企業形態論の全体的枠組み・内容を基礎的に理解し、後半は社会主義企業形態を重点的に研究する。

4年次-各自の選択したテーマに関する報告と討論が中心になる。

3 指導テキスト

『講座現代経営経済学2, 企業形態論』, 中央経済社, 昭和43年。

S. Kamenitser, The Experience of Industrial Management in the Soviet Union, Moscow, 1975.

### 榎本教官担当研究指導

毎年, あるテーマを共同で研究するという方式をとっている, それを続けたい。

ちなみに4年生のテーマは「我が国の電機産業の研究」である。

### 中教官担当研究指導

#### 1 研究主題

管理会計

#### 2 指導要領

3年次生: 管理会計の概観と基本的な概念の理解をえるために下記の文献を講読する。

青木茂男「管理会計研究」中央経済社 昭和55年

4年次生: 当初若干の外国語文献を輪読したのち, 各自の選択したテーマについて報告と討論を繰り返しながら最終的に卒業論文の作成へ導く。

### 林教官担当研究指導

#### 1 研究主題

労務管理論および組織心理学

#### 2 指導要領

3年次生: まず上記の研究主題について基礎的認識をもってもらい, できるだけ早い時期に個人研究のテーマを設定できるようにしたい。

4年次生: 個人研究の報告と議論(実証研究を奨励したい)

#### 3 指導テキストおよび参考書(論文も含む)は多数, 適宜指示。

### 福島教官担当研究指導

#### 1 研究主題

原価計算および管理会計

#### 2 指導要領

3年目の前半では基本的な「原価計算」のテキストによって基礎知識を身につけ, その後半から4年目にかけて「管理会計」の外国文献(英文)の精読によって知識を深める。ひきつづき卒業までに, 各自選択したテーマで卒業論文を執筆する。

いずれの段階においても, 単なる知識の修得だけでなく, 討論を通じて研究主題特有の考え方を各自培うことを目標にする。

#### 3 テキスト

3年目前半では諸井勝之助『原価計算講義』(東京大学出版会), 後半からはA.R. Drebin and H. Bierman, Jr., *Managerial Accounting: An Introduction* (3rd edition)を使う予定である。

#### 4 留意事項

ゼミ生には旺盛な研究意欲とならんで地道な学習努力を要求する。

### 山本教官担当研究指導

#### 1 研究主題

会計構造論(簿記を含む)および会計情報論

#### 2 指導要領

3年次: 基本文献の輪読による基礎知識の修得。

4年次: 卒業論文作成のため, 各自選択したテーマについての発表と討論。

#### 3 申込みの条件

2年次終了時において簿記学の単位を確実に取得しうる者。

### 松本教官担当研究指導

#### 1 研究主題

簿記および財務会計（基礎的な財務諸表分析を含む）。

## 2 指導要領

3年次：上記の研究主題について、ゼミ生共通の知識を身につけ各自の問題を発見することを目的として、基本的な文献（和文・英文）を数冊輪読します。

4年次：卒業論文の作成を最終目的として、各自の選択したテーマについて発表と討論を行います。なお前半は、国際会計論に関する文献（英文）の輪読も行います。

## 3 申込みの条件

簿記・会計を本当に勉強してゆく熱意があり、ゼミ単位の諸活動に積極的に参加できる者を希望します。

## 4 その他

外書の講読について：外書を正しく読めるかどうかは、内容の理解度および日本語での表現力に依存することが大きいと考えます。それ故、とくに3年次は、簿記・会計の基本的な知識さえあれば理解に苦しむことのないやさしい文献を通じて、英語で書かれたことを正しい日本語で表現することに努めます。

## 神田教官担当研究指導

### 1 研究主題

民法学における重要問題の研究

### 2 指導要領

重要判例や事例問題の検討をとらえて民法の全体像・運用の実際を理解するとともに、民法学上の現代的課題を研究する。

2名ないし3名のグループで共同研究してもらい、その報告をうけて全体で論議する。

4年次の9月以降は、卒論の指導を中心とする。

### 3 指導テキストおよび参考書

相談のうえ決定したい。但し『民法の争点』（ジュリスト別冊）および『民法判例百選Ⅰ・Ⅱ』（ジュリスト別冊）は、副読本として用いることは確実なので、予め購入しておくこと。

### 4 申込みの条件

商学科経営法学コース所属の者であること。

財産法Ⅰを履修中の者であること。

### 5 選考の方法

参加希望者があまりに多い場合にのみ選考を行う。その方法は、必要に応じ、後日通知する。今のところ、受入れの最大限度は15名位と考えている。

### 6 その他

研究意欲旺盛で地道に勉強する態度が必要です。相当の理由なく欠席するような者に対しては、指導を遠慮します。財産法Ⅰの単位をとれない者は3月の時点で内定を取り消します。

## 青竹教官担当研究指導

### 1 研究主題

会社法の研究

### 2 指導要領

会社法に関する判例を中心に会社法が現実の企業活動とどのように関わっているかを検討してもらう。なお、4年次の後半は卒業論文の作成指導とする。

### 3 指導テキストおよび参考書

(1) ジュリスト別冊『会社判例百選』（第4版）有斐閣

(2) 上柳・鴻・竹内編『会社法演習(1), (2), (3)』有斐閣

(3) 青竹『小規模閉鎖会社の法規整』文真堂

## 石原(全)教官担当研究指導

### 1 研究主題

(1) 商法上の諸問題

(2) 普通取引約款の基礎理論

### 2 指導要領

3年次：(1)につき、適当な判例を教材として論議し、商法的理解を得

ることを目的とする。これは前期で終了する予定。

(2)につき、内外の文献を輪読する。

4年次： 文献講読及び卒業論文の要旨を随次報告してもらう。

### 秋山教官担当研究指導

#### 1 研究主題

「行政判例の研究」

過去の重要な行政判例をとりあげ、具体的なケースを通して、行政法の構造、法理、解釈を検討することをねらいとする。

#### 2 指導要領

3年次生は、とりあえず、下記の(1)により、行政判例の基本的な読み方と解釈論の基礎を身につける。それまでに、コンパクトに書かれた行政法の体系書(すでに通知済み)を読み、一通りの理解をしておくこと。

#### 3 指導テキスト

(1) 行政判例百選Ⅰ・Ⅱ(別冊ジュリスト)

(2) 判例時報

### 結城教官担当研究指導

#### 1 研究主題

(イ) 近代立憲主義の基本原則

(ロ) 最新憲法判例の検討

#### 2 指導要領

(イ)を全体的なテーマとし、後に指示する文献を素材として研究・討論する。この間、新たな憲法判例が出された場合、随時これを検討する。

4年次生は卒論の中間発表を中心とし、随時ロを行う。

#### 3 指導テキストおよび参考書

(イ) テキストは追って指示する。

(ロ) 『判例時報』を随時使用。

上記の他に、ロック『市民政府論』、ルソー『社会契約論』は必読のこと。

### 飯塚教官担当研究指導

#### 1 研究主題

環境法・不法行為法の諸問題

#### 2 指導要領

(1) 環境判例・不法行為判例を素材にして、テーマの理解につとめる。

(2) 随時、重要文献の輪読を行う。

4年次の後半は卒論指導とする。

#### 3 指導テキスト

『公害・環境判例(第二版)』有斐閣、『民法判例百選Ⅱ債権(第二版)』有斐閣。

### 振津教官担当研究指導

#### 1 研究主題

刑法解釈学上の基本問題(刑事法一般の重要問題をも含む)。

#### 2 指導要領

刑法学上の基本的、かつ重要な問題点を採り上げ、担当報告者の報告をもとに討論する(4年次生は、後半から卒論指導を行う予定)。

#### 3 指導テキスト

4年次生：『現代刑法講座第4巻—刑法各論の諸問題』(成文堂)

3年次生：中山研一著『刑法総論』(成文堂)

(なお、参考書等は、テーマに応じて、その都度指示する)

### 中島教官担当研究指導

#### 1 研究主題

民事訴訟法上の重要問題の検討

#### 2 指導要領

民事訴訟法上の重要問題を、主として下記のテキストの具体的な設例を通して検討する。なお、実体法である民法・商法と関連するテーマを出来る限り取り入れてゆきたいと考えている。

授業は、予め十分に準備されたレポーターの報告に基づき、全員が積極的に討論に参加するという形で行う。

### 3 指導テキストおよび参考書

#### (1) テキスト

中野貞一郎＝松浦馨編『ワークブック民事訴訟法』（有斐閣）

#### (2) 参考書

小室直人＝賀集唱編『基本法コンメンタール・民事訴訟法〔新版〕』（日本評論社）

斎藤秀夫編『注解民事訴訟法(1)～(7)』（第一法規）

三ヶ月章＝青山善充編『民事訴訟法の争点』（有斐閣）

## 和田(健)教官担当研究指導

### 1 研究主題

独禁政策上の諸問題の考察

### 2 指導要項

○第Ⅰ部：ケーススタディ－独禁法の審決・判例の研究。各自に割り当て報告。毎回全員に当該事件についてのレポート提出が義務づけられる。

○第Ⅱ部：一定のテーマを設定し、必要な資料・文献にもとづいて報告。その間定期的に卒業論文の指導を行う。

### 3 指導テキスト

「経済法」教授要目に掲げた文献。ゼミでの個々の研究に必要な文献・テキストはそのつど指摘する。

## 清水教官担当研究指導

### 1 研究主題

国際経済法

昨年度より和田健夫先生が無体財産法を御開講なされたことを鑑み、当ゼミでは、本年度、知的所有権（無体財産権）に関する国際的な法律問題を研究し、あわせて南北問題における技術移転について考えること

とする。

### 2 指導要領

3年次－下記指導テキストの講読及びその内容についての個人研究発表並びに下記参考書の読書レポートの作成。

4年次－卒業論文の作成。

### 3 指導テキスト

E. Ulmer, Intellectual Property Rights and the Conflict of Laws (1978).

### 4 参考書

1. 早川武夫『法律英語の常識』（日本評論社）

2. 望月礼二郎『英米法』（青林書院新社）

3. 折茂豊『国際私法講話』（有斐閣）

4. 沢木敬郎『国際私法入門』（有斐閣）

5. 特許庁工業所有権法研究会編『知っておきたい特許法』（大蔵省印刷局）

6. フリッツ・マッハルプ土井輝生訳『特許制度の経済学』（日本経済新聞社）

7. 特許庁編訳『特許制度と技術移転』（大蔵省印刷局）

8. 土井輝生『知的所有権法』（青林書院新社）

9. 澤田壽夫・曾野和明・岡田弘道・柏木昇・澁谷達紀・落合誠一・松下満雄・飯塚重男・小松芳明『国際取引法講義』（有斐閣）

## 沼田教官担当研究指導

### 1 研究主題

オペレーションズ・リサーチ

種々の計画法、最適化法についてその考え方、手法を学ぶ。

### 2 指導要領

○外国書（英語）の読み方の訓練

○理解したことをわかりやすく発表する訓練

○OR的なものの考え方の訓練

○オペレーションズ・リサーチには奇想天外な発想が必要です。必要以上

に真面目すぎる人は不向きです。茶目気のある人に向いています。(もちろん、不真面目な人はいけません)

- 3 テキスト  
Hamdy A. Taha, *Operations Research* (Collier MacMillan, 1982, 3rd ed.)
- 4 申込みの条件
  - 管理科学概論を履修していること
  - 通常の年限で卒業する見込みが十分あること
  - 応用数学(代数)の成績は、良いに越したことはありませんが、それだけで選考するわけではありません。英語力も大切です。

#### 戸島教官担当研究指導

LispまたはPrologの処理系の開発・改良を行う。計算機を使用する実技に重きをおくが、3年次生は計算機利用の諸形態を広く見聞し経験することを目標とし、4年次生はとにかく何らかの処理系を卒業論文として作りあげること目標とする。

#### 山田(一)教官担当研究指導

- 1 研究主題  
Decision Support Systems for Organization and Management. 組織管理と情報システムに関する理論的ならびに実証的研究。(広義の経営科学、主にコンピュータ・アプリケーション問題、組織科学と情報システムとの関連研究の立場から意志決定支援システムの実証的研究を展開。上記の目的を達成するためにプロジェクト研究への共同参加・特定モデルの開発研究などサブゼミ活動を予定する。)
- 2 指導要項
  - (イ) 全般: 現代に生きるテクノクラートとしての基礎理論と応用能力の涵養をはかり、組織の時代を先導するシステム・エンジニアとしての資質の向上を目標とする。
  - (ロ) 58年度: 使用テキストに従い、輪読形式で討論をすすめる。サブゼミ

活動も同時併行する。

- (イ) 59年度: 各自のテーマによる卒業論文の指導と完成、理論と実践との橋渡しをはかる各種事例研究も同時併行する。
- 3 指導テキストおよび参考書  
〔組織科学=情報科学+決定科学+行動科学〕という基本的視座から、Decision Support Systemsに関する主要文献について取り上げる予定である。なお、具体的学習計画は参加者と相談の上決定する。
- 4 申込みの条件  
積極的な参加意欲と自己管理に厳しい人物で、独創性と協調性との両立を条件とする。真の人間尊重をめざした道具としてのコンピュータ活用の実現に向けて全力投入できる努力家を歓迎する。

#### 樋口教官担当研究指導

- 1 研究主題  
社会システム・モデルについての理論的および実証的研究
- 2 指導要領
  - 3年次: 主としてテキスト講読。他にプログラミング演習を行う。
  - 4年次: テキスト講読(多変量解析)の他に、社会システムのモデル構築のためのプログラムの開発およびデータ解析。(参考) 昨年度の卒論テーマは、産業連関分析(省エネルギー下の産業構造)、ISMシステムとそのプログラミング、マイコンによる効率的LP問題の解法、最適化手法のマイコンによるソフトウェア、マイコンによるGMDHプログラミング、マイコンによるDYNAMOコンパイラ作成、など社会システム分析に必要な分析手法の作成にテーマを限定した。

#### 清水川教官担当研究指導

- 3年次: An Introduction to Probability Theory and Mathematical Statistics, V.K. Rohatgi 1976.
- 4年次: 統計学的手法を用い実証分析を行う。

## 杉本教官担当研究指導

- 1 研究主題 情報処理の基礎理論と応用  
情報処理とは記号列の変換のことである。その際、有限の資源（計算時間、記憶量、人的エネルギー）を有効に活用するための代数的、組合せ的あるいは回帰的構造が研究の対象となる。さらに、こうして得られる形式システムの自然言語への応用を試みる。
- 2 指導要領  
計算の理論と論理システムの精読と演習によって形式システムを理解する。次に、言語翻訳、プログラム生成、システムの検証等々への応用テーマを選択させ、その実現システムの作成を卒論とする。4年生までにLisp, Prologなどの記号処理プログラミング能力が必要となる。

## 若林教官担当研究指導

- 1 研究主題 管理科学の基礎的研究。  
国民経済、企業、計算機等のシステムの合理的、又は最適な運営について、具体的、抽象的モデルを設計、操作することにより、考究する。
- 2 指導要領  
(イ) 基礎的な数学、経済分析、プログラミングの演習。  
(ロ) 専門書の精読、問題。  
(ハ) 下記のテーマのうちから、卒業論文の作成、報告。  
組合せ算法（ネットワーク、グラフ、ゲーム）  
データベース  
数理計画法、数理経済学  
インタプリタ、コンパイラ
- 3 参考文献  
V. Chvatal, *Linear Programming*, 1983.

## IV 一般教育ゼミ

### 一般教育ゼミ（歴史学）

助教授 栗生沢 猛 夫

M. П. ムーソルグスキーのオペラ『ボリス・ゴドゥノフ』 Борис Годунов を聴きながら、そのテキストをロシア語原文で読みます。ロシア語の力をつけるというよりは、ロシア的雰囲気にならなことを目指します。参加希望者は4月28日(木)12時半に小生の研究室に集まって下さい。

### 一般教育ゼミ（ドイツ語中級）

助教授 大塚 譲

すでにドイツ語Ⅱを修得した人を対象とします。本年度は、ドイツ語の実際の運用と読む作業との総合を、（私自身あまり自信はありませんが）参加者諸君と共に何らかの形で追究してみたいと思います。テキストは、いくつか考えられますが参加者と相談の上決定いたします。参加希望者は、4月25日（月）12時30分に私の研究室（424）に集って下さい。実施日時やテキストなどもその際に相談したいと思います。